

DrakX

Mageia の公式ドキュメント



本マニュアル内の文章とスクリーンショットは クリエイティブ・コモンズ表示-継承 3.0 ライセンス <https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/> [<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>] のもとで利用可能です。

This manual was produced with the help of the [Calenco CCMS](https://www.calenco.com) [<https://www.calenco.com>].

これはボランティアによってその自由な時間の中で書かれたものです。
もし本マニュアルの改善を手助けしたいのであれば [Documentation チーム](https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team) [https://wiki.mageia.org/en/Documentation_team]までご連絡をお願いします。

DrakX を用いたインストール

目次

DrakX を用いたインストール	1
1. ISO の選択と使用	1
1.1. はじめに	1
1.2. メディア	1
1.3. メディアのダウンロードとチェック	3
1.4. ISO を焼くか書き込む	5
2. DrakX, Mageia インストーラ	7
2.1. インストールのステップ	7
2.2. インストールのようこそ画面	8
2.3. インストールの問題と解決法	10
3. 使用する言語を選択する	10
4. 使用許諾契約とリリース ノート	11
4.1. 使用許諾契約の同意	11
4.2. リリース ノート	12
5. SCSI を設定する	12
6. インストールもしくはアップグレードを行う	13
7. タイムゾーンを設定する	14
8. Date, Clock and Time Zone Settings	15
9. キーボード	15
10. パーティションの設定	16
10.1. 自動パーティション設定	16
10.2. マウント ポイントを選択する	22
10.3. ハード ディスクをフォーマットするか確認する	23
10.4. DiskDrake によるパーティションのカスタム設定	24
10.5. フォーマット	27
11. ソフトウェア	28
11.1. メディアの選択	28
11.2. デスクトップの選択	29
11.3. パッケージ グループの選択	31
11.4. 最小構成インストール	31
11.5. パッケージを個別に選択する	33
12. ユーザの管理	34
12.1. 管理者 (root) のパスワードを設定する:	34
12.2. ユーザを入力する	34
12.3. ユーザの管理 (上級)	35
13. グラフィカル設定	36
13.1. グラフィックス カードとモニタを設定する	36
13.2. X サーバを選択する (グラフィック カードを設定する)	37
13.3. モニタを選択する	38
14. ブートローダ	39
14.1. 利用可能なブートローダ	39
14.2. ブートローダの設定	40
14.3. その他の項目	44
15. 設定の概要	45
15.1. システムのパラメータ	45
15.2. ハードウェアのパラメータ	46
15.3. ネットワークとインターネットのパラメータ	47
15.4. セキュリティ	47
16. 国や地域を選択する	48
16.1. 入力メソッド	49
17. サービスを設定する	49

18. マウスを選択する	50
19. サウンドの設定	51
19.1. 上級	51
20. セキュリティ レベル	52
21. ファイアウォール	53
22. 更新	54
23. おめでとうございます	55
24. Mageia をアンインストールする	55

目次

1. EFI システム パーティション	25
2. BIOS ブート パーティション	26

DrakX



あなたが本マニュアル内で目にしたすべてのインストーラの画面を目にする人はいないでしょう。どの画面を見ることになるのかは、あなたのハードウェアとインストール時の選択内容によって変わります。

1. ISO の選択と使用

1.1. はじめに

Mageia は ISO イメージで配布されています。このページはあなたに合っているイメージの選択を手助けします。

メディアには三つの種類があります:

- **クラシック インストーラ:** このメディアで起動すると何をインストールするかやシステムの設定に対して最大限柔軟に進めることができます。特に、どのデスクトップ環境をインストールするかの選択が行えます。
- **ライブ メディア:** この選択では実際にインストールしたりお使いのコンピュータに変更を加えたりせずに Mageia を試すことが可能です。一方、ライブ メディアはインストーラも含んでおり、メディアのブート時またはライブ オペレーティング システム自体をブートした後に開始できます。



ライブ インストーラはクラシック インストーラと比べてシンプルですが、それよりも選択できることは少ないです。



ライブ ISO は「クリーン」インストールの際にのみ使用でき、以前インストールした Mageia のリリースをアップグレードするのに用いることはできません。

- **ネット インストール:** DrakX インストーラを開始したり、DrakX-installer-stage2 とインストールの続行および完了に必要な他のパッケージを見つけたりするのに必要なもの以外を含まない最小限の ISO があります。これらのパッケージは PC のハード ディスク、ローカル ドライブ、ローカル ネットワーク、インターネットにあってもかまいません。

これらのメディアは非常に軽量 (100 MB 未満) で、DVD 全体をダウンロードするのに帯域幅が狭すぎる場合、DVD ドライブのない PC をお持ちの場合、USB スティックからブートできない場合に便利です。

より詳しくは続くセクションで説明します。

1.2. メディア

1.2.1. 定義

ここで、メディアとは Mageia のインストールや更新を行えるようにする ISO イメージ ファイルのことで、延長線上で考えると ISO ファイルの内容を書き込んだ物理的な媒体 (DVD, USB スティックなど) です。

Mageia の ISO は [こちら](http://www.mageia.org/ja/downloads/) [http://www.mageia.org/ja/downloads/]で見つかります。

1.2.2. クラシック インストール メディア

1.2.2.1. 共通の機能

- これらの ISO は DrakX と呼ばれるクラシック インストーラを使用します。
- これらはクリーン インストールもしくは以前インストールしたバージョンの Mageia をアップグレードするために用いられます。
- 32 ビットと 64 ビットのアーキテクチャでメディアは異なります。
- 「ようこそ」画面で幾つかのツールが利用できます: *Rescue System, Memory Test, Hardware Detection Tool*
- 各 DVD はたくさんの利用可能なデスクトップ環境や言語を含んでいます。
- インストール時に非フリーのソフトウェアを追加するか選択することになります。

1.2.3. ライブ メディア

1.2.3.1. 共通の機能

- インストールをせずに Mageia オペレーティング システムを下調べするために使用できます。
- ライブ メディアはインストーラも含んでいます。
- 各 ISO は一つのデスクトップ環境 (Plasma, GNOME, Xfce) しか含んでいません。
- 32 ビットと 64 ビットのアーキテクチャでメディアは異なります。
- これらは非フリーのソフトウェアを含んでいます。

1.2.3.2. ライブ DVD Plasma

- Plasma デスクトップ環境のみとなります。
- 利用可能な全言語が収録されています。
- 64 ビットアーキテクチャ専用です。

1.2.3.3. ライブ DVD GNOME

- GNOME デスクトップ環境のみとなります。
- 利用可能な全言語が収録されています。
- 64 ビットアーキテクチャ専用です。

1.2.3.4. ライブ DVD Xfce

- Xfce デスクトップ環境のみとなります。
- 利用可能な全言語が収録されています。
- 32 ビットと 64 ビットのアーキテクチャに対応しています。

1.2.4. ネット インストール メディア

1.2.4.1. 共通の機能

- 32 ビットと 64 ビットのアーキテクチャでメディアは異なります。

- 最初の幾つかのステップは英語のみとなります。

1.2.4.2. netinstall.iso

- フリーソフトウェアのみを含んでおり、非フリーのソフトウェアを使用しないことを好む方々に向けたものとなります。

1.2.4.3. netinstall-nonfree.iso

- 非フリーのソフトウェア (大部分はドライバやコーデックなど) を含んでおり、これを必要とする方々に向けたものです。

1.3. メディアのダウンロードとチェック

1.3.1. ダウンロード

ISO ファイルを選択したら、いつでも http もしくは BitTorrent でダウンロードすることができます。いずれの場合においても、使用されるミラーや帯域幅が狭すぎる場合の代替のような幾つかの情報が提供されます。

http が選択された場合、チェックサムについての情報も表示されます。

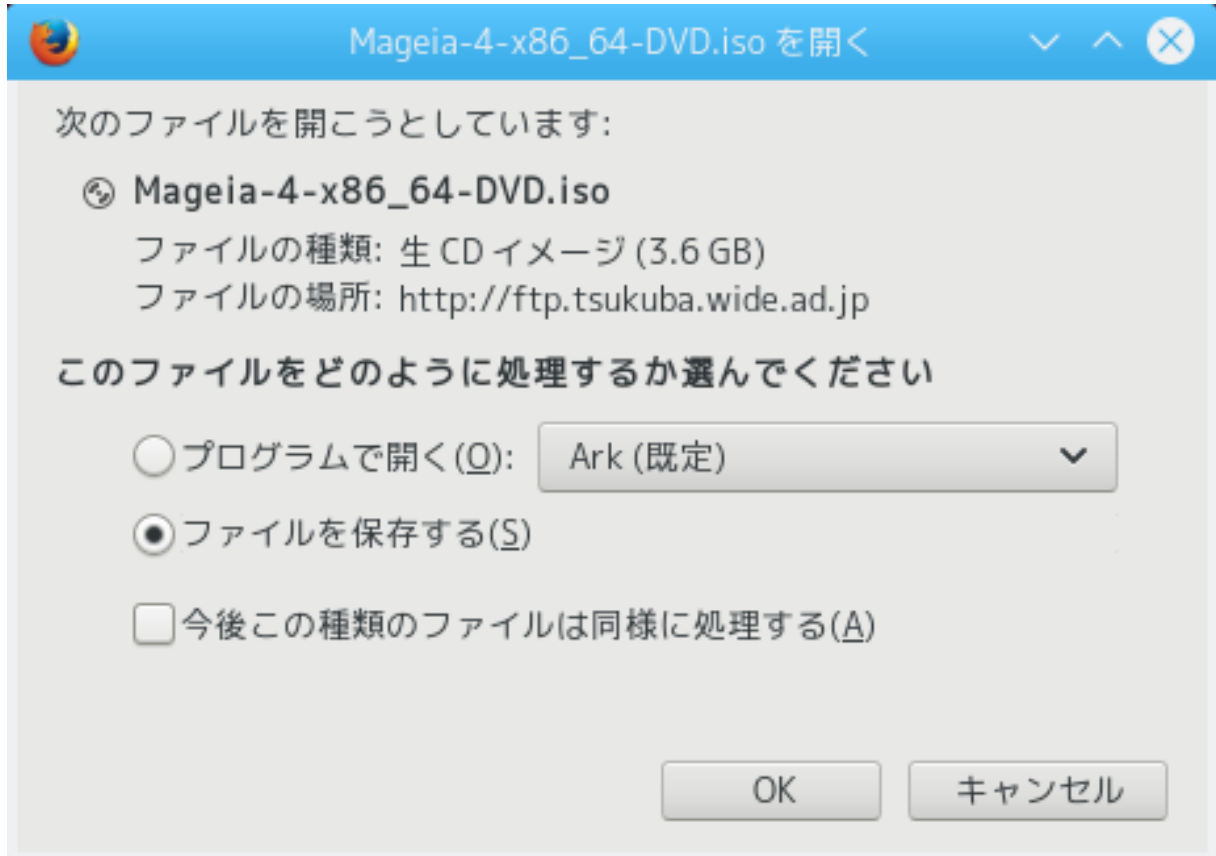
md5sum, sha512sum, sha3-512sum (最も安全) は ISO の完全性をチェックするツールです。次のセクションで使用するためにチェックサム (英数の文字列) のいずれかをコピーしてください。

```
$ # iso とチェックサムの両方のファイルを同じフォルダに置く必要があります
$ md5sum -c Mageia-10-beta1-x86_64.iso.md5
Mageia-10-beta1-x86_64.iso: OK

$ sha512sum -c Mageia-10-beta1-x86_64.iso.sha512
Mageia-10-beta1-x86_64.iso: OK

$ sha3-512sum -c Mageia-10-beta1-x86_64.iso.sha3
Mageia-10-beta1-x86_64.iso: OK
```

そうしている内に、ISO をダウンロードするためのウィンドウが開きます:



#####をクリックし、OK をクリックします。

1.3.2. ダウンロードしたメディアの完全性をチェックする

先述したチェックサムは、ダウンロードするファイルからアルゴリズムにより生成された電子指紋です。ダウンロードした ISO のチェックサムをオリジナルのソース ISO に対して比較することができます。チェックサムが一致しない場合、ISO 上の実際のデータが一致しないことを意味し、そのときはダウンロードをやり直すか BitTorrent で修復を試みるべきです。

ダウンロードした ISO からチェックサムを生成するには、端末を開いて (root になる必要はありません)、以下を行います:

- md5sum を用いるには、以下を入力します: **md5sum path/to/the/image/file.iso**
- sha512sum を用いるには、以下を入力します: **sha512sum path/to/the/image/file.iso**
- sha3-512sum を用いるには、以下を入力します: **sha3-512sum path/to/the/image/file.iso**

例:

```
[sam5@localhost ~]$ md5sum /home/sam5/Downloads/Mageia-4-RC-x86_64-DVD.iso
ec1ce42c4b003b5e9bea6911968195c8 /home/sam5/Downloads/Mageia-4-RC-x86_64-DVD.iso
[sam5@localhost ~]$
```

その後、結果 (しばらく待つ必要があるかもしれません) を Mageia により提供される ISO チェックサムと比較します。

1.4. ISO を焼くか書き込む

確認済みの ISO は CD や DVD に焼くか、もしくは USB スティックに「書き込む」ことができます。これは普通のコピー操作ではなく、ブート可能なメディアを作成するものです。

1.4.1. ISO を CD/DVD に焼く

どのソフトウェアを用いる場合も、#####として焼くように設定されているかを確認し、###や### #を焼くのは正しくありません。詳しい情報は [Mageia wiki](https://wiki.mageia.org/en/Writing_CD_and_DVD_images) [https://wiki.mageia.org/en/Writing_CD_and_DVD_images] を参照してください。

1.4.2. ISO を USB スティックに書き込む

すべての Mageia の ISO はハイブリッドです。これはこれらを USB スティックに書き込むことができ、かつブートしてシステムをインストールするのに使用できることを意味します。



フラッシュ デバイスへのイメージの書き込みはデバイス上のすべての既存のファイル システムを破壊し、既存のすべてのデータは失われます。



また、フラッシュ デバイス上のパーティションは Mageia の ISO のパーティションのみとなります。

それから、8GB の USB スティックに約 4GB の ISO を書き込んだ場合、そのスティックは 4GB としか表示されません。これは残りの 4GB が未フォーマットなためです - 従って、今は使用することができません。元の容量に回復するには、再度 USB スティックのフォーマットとパーティションの作成を行わなければなりません。

1.4.2.1. Mageia 内でグラフィカル ツールを使用する

[IsoDumper](https://wiki.mageia.org/en/IsoDumper_Writing_ISO_images_on_USB_sticks) [https://wiki.mageia.org/en/IsoDumper_Writing_ISO_images_on_USB_sticks] のようなグラフィカル ツールを使用できます。

1.4.2.2. Windows 内でグラフィカル ツールを使用する

以下を試すことができます:

- [Rufus](http://rufus.akeo.ie/?locale=en_US) [http://rufus.akeo.ie/?locale=en_US] using the "ISO image" option
- [Win32 Disk Imager](http://sourceforge.net/projects/win32diskimager) [http://sourceforge.net/projects/win32diskimager]

1.4.2.3. GNU/Linux システム内でコマンド ラインを使用する



これを手動で行うことは潜在的に *危険* です。対象デバイスの指定を間違えると大事な既存のデータを上書きするおそれがあります。

1. 端末を開きます
2. **su** - コマンドで *root* (管理者) ユーザになります (- を忘れないでください)

```
[sam5@localhost ~]$ su -  
Password:  
[root@localhost ~]#  
[root@localhost ~]#  
[root@localhost ~]# █
```

3. USB スティックを挿入します - ただしマウントはしないでください (これにアクセスしたり読み込んだりする可能性のあるアプリケーションやファイル マネージャを開かないということも意味します)
4. コマンド **fdisk -l** を入力します

```
[root@localhost ~]# fdisk -l  
  
Disk /dev/sda: 298.1 GiB, 320072933376 bytes, 625142448 sectors  
Units: sectors of 1 * 512 = 512 bytes  
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 4096 bytes  
I/O size (minimum/optimal): 4096 bytes / 4096 bytes  
Disklabel type: dos  
Disk identifier: 0x000db4bf  
Partition 3 does not start on physical sector boundary.  
  
Device      Boot      Start          End      Blocks      Id System  
/dev/sda1   *          2048      21256191    10627072    83 Linux  
/dev/sda2           21256192    63528959    21136384    83 Linux  
/dev/sda3           63530964    625137344    280803190+    5 Extended  
/dev/sda5           63531008    84873215    10671104    83 Linux  
/dev/sda6           84875264    127016959    21070848    83 Linux  
/dev/sda7          127019008    135985151     4483072    82 Linux swap / Solaris  
/dev/sda8          135987200    198598655    31305728    83 Linux  
/dev/sda9          198600704    471588863    136494080    83 Linux  
/dev/sda10         471590912    496777994    12593541+    83 Linux  
/dev/sda11         496781312    504955079     4086884    82 Linux swap / Solaris  
/dev/sda12         504958976    625137344    60089184+    83 Linux  
  
Disk /dev/sdb: 7.5 GiB, 8011087872 bytes, 15646656 sectors  
Units: sectors of 1 * 512 = 512 bytes  
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes  
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes  
Disklabel type: dos  
Disk identifier: 0x15005631  
  
Device      Boot Start          End      Blocks      Id System  
/dev/sdb1   *           1      7598079    3799039+    17 Hidden HPFS/NTFS  
  
[root@localhost ~]# █
```

5. お使いの USB スティックのデバイス名を探します (サイズを参考にします)。例えば上のスクリーンショットでは `/dev/sdb` で、8GB の USB スティックです。

代わりに、`dmesg` コマンドでデバイス名を探することができます。下の例の終わり付近には `sd` で始まるデバイス名があり、この場合 `sdd` が実際のデバイスとなります。そのサイズが 2GB であることも分かります:

```
[72594.604531] usb 1-1: new high-speed USB device number 27 using
xhci_hcd
[72594.770528] usb 1-1: New USB device found, idVendor=8564,
idProduct=1000
[72594.770533] usb 1-1: New USB device strings: Mfr=1, Product=2,
SerialNumber=3
[72594.770536] usb 1-1: Product: Mass Storage Device
[72594.770537] usb 1-1: Manufacturer: JetFlash
[72594.770539] usb 1-1: SerialNumber: 18MJTWLMPUCC3SSB
[72594.770713] usb 1-1: ep 0x81 - rounding interval to 128 microframes,
ep desc says 255 microframes
[72594.770719] usb 1-1: ep 0x2 - rounding interval to 128 microframes,
ep desc says 255 microframes
[72594.771122] usb-storage 1-1:1.0: USB Mass Storage device detected
[72594.772447] scsi host8: usb-storage 1-1:1.0
[72595.963238] scsi 8:0:0:0: Direct-Access      JetFlash Transcend 2GB
1100 PQ: 0 ANSI: 4
[72595.963626] sd 8:0:0:0: [sdd] 4194304 512-byte logical blocks: (2.14
GB/2.00 GiB)
[72595.964104] sd 8:0:0:0: [sdd] Write Protect is off
[72595.964108] sd 8:0:0:0: [sdd] Mode Sense: 43 00 00 00
[72595.965025] sd 8:0:0:0: [sdd] No Caching mode page found
[72595.965031] sd 8:0:0:0: [sdd] Assuming drive cache: write through
[72595.967251]   sdd: sdd1
[72595.969446] sd 8:0:0:0: [sdd] Attached SCSI removable disk
```

6. 次のコマンドを入力します: `dd if=path/to/the/ISO/file of=/dev/sdx bs=1M`

`x` はお使いのデバイス名で、例えば: `/dev/sdd` です

例: `dd if=/home/user/Downloads/Mageia-6-x86_64-DVD.iso of=/dev/sdd bs=1M`



`if` が input file を、`of` が output file を表すということを知っていると役に立つかもしれません

7. 次のコマンドを入力します: `sync`
8. これが手順の終わりです、お使いの USB スティックを抜くことができます。

2. DrakX, Mageia インストーラ

あなたが GNU-Linux に不慣れであっても熟練ユーザであっても、Mageia インストーラは可能な限りインストールやアップグレードを容易に行えるよう手助けをするように設計されています。

2.1. インストールのステップ

- インストール手順は幾つかのステップに分かれています - その状態は画面の左にあるパネルに示されます。

- 各ステップには一つ以上の画面があり、画面によっては追加の、あまり使われない項目のための##セクションもあります。
- ほとんどの画面には###ボタンがあり、特定のステップについての詳細を見ることができます。



インストールの処理中にこれを中止しようと決めた場合、再起動してもかまいませんが、その前に二度考えてください。いったんパーティションがフォーマットされたりインストールのための更新処理が始まったりした場合、お使いのコンピュータはもはや同じ状態ではなく、再起動を行うことはシステムを使用不能にするおそれが大きいです。

それでも再起動を強く望むのであれば、**Ctrl+Alt+F2** のキーを同時に押してテキスト端末に移動します。その後、**Ctrl+Alt+Delete** を同時に押すと再起動します。

2.2. インストールのようこそ画面

インストール メディアからのブート時に最初に表示される画面は、お使いのコンピュータのマザーボードが Legacy (BIOS) か UEFI かの種類によって変わります。

ようこそメニュー画面には様々なオプションがありますが、既定の選択でもインストーラは開始するため、通常はこれで問題ありません。

2.2.1. Legacy (BIOS) システム



#####

- Mageia をインストール

Mageia をハード ディスクにインストールします。これは既定の選択で、他のオプションが選択されていないならば自動的に開始します。

- システムを復旧

この選択肢ではインストール済みの Mageia のブートローダの再インストールや Windows のブートローダの復元が行えます。

- メモリをテスト

複数回の読み書き操作を行うことで、装着された RAM をテストします。再起動するとテストを終了します。

- F2: 言語

F2 を押すと言語を変更できます。

2.2.2. UEFI システム

この画面では、**e** を押すと編集モードに入ってオプションを編集することができます。この画面に戻るには、**Esc** キーを押して保存せずに終了するか、**F10** を押して設定を保存して終了します。



####

- **インストール:** インストールを開始します。
- **復旧:** この選択肢ではインストール済みの Mageia のブートローダの再インストールや Windows のブートローダの復元が行えます。
- **F2: 言語:** F2 を押すと言語を変更できます。

USBスティックからブートした場合、上のメニュー項目と同じ項目が表示されますが、"USB"で終わるものを選択してください。

2.3. インストールの問題と解決法

2.3.1. グラフィカル インターフェースが表示されない

- 最初の画面の後で#####画面に進みませんでした。これは幾つかのグラフィック カードや古めのシステムで発生することがあります。 **vgalo** を入力して低解像度の使用を試してください。
- ハードウェアが非常に古い場合、グラフィカルなインストールが行えない可能性があります。この場合テキスト モード インストールを試してみる価値があります。これを使用するには####
#画面で **Esc** を押して **ENTER** で確認します。そうするとboot: プロンプトのある黒い画面に移ります。ここで **text** と入力して **ENTER** を押し、テキスト モードでインストールを続行します。

2.3.2. インストール時にフリーズする

インストールの間にシステムがフリーズしたように思われる場合、ハードウェアの検出の問題の可能性がります。この場合、ハードウェアの自動検出を避けて後で行うことができます。これを試すには、プロンプトで **noauto** を入力します。このオプションは必要に応じて他のパラメータと組み合わせて用いることができます。

2.3.3. RAM の問題

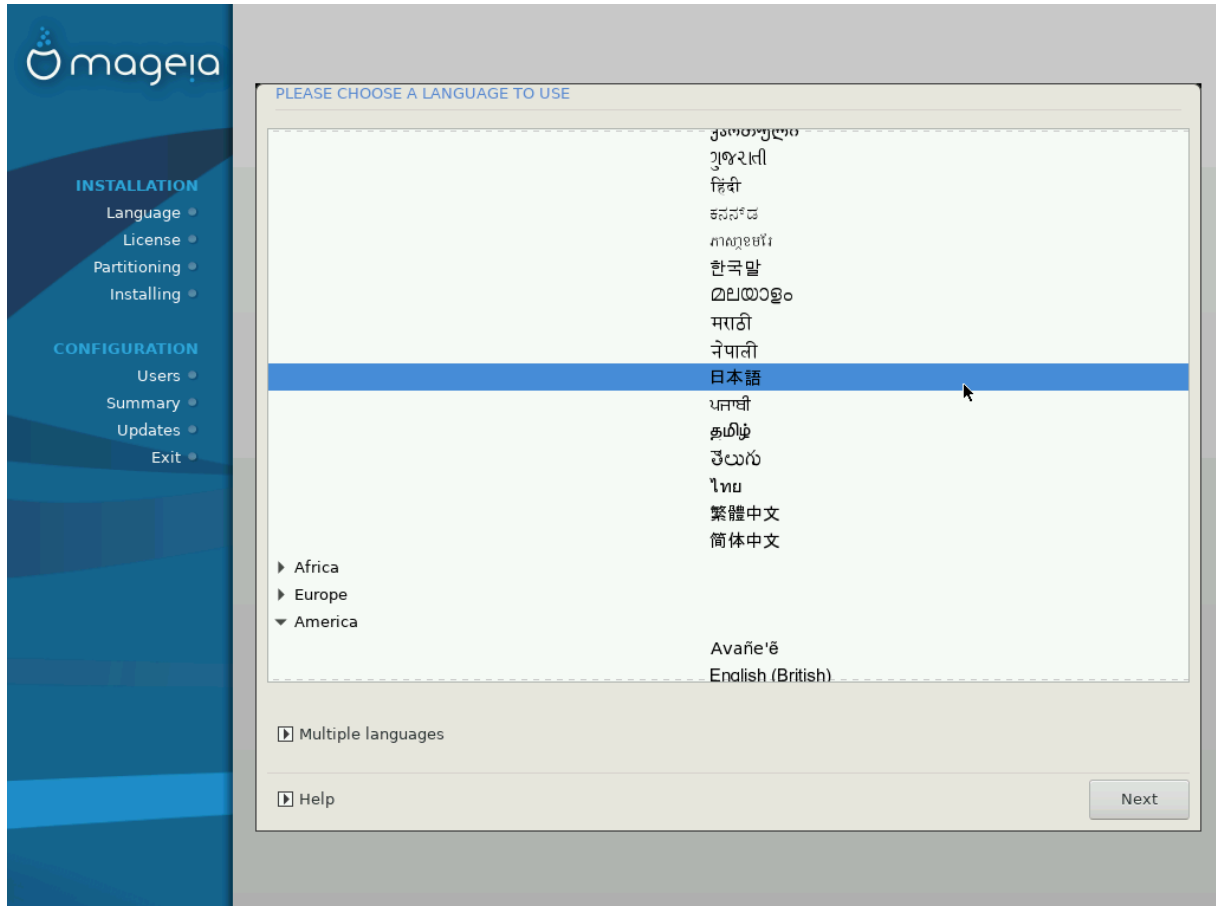
滅多に必要なにはありませんが、場合によってはハードウェアが利用可能な RAM を間違って報告する可能性があります。これを手動で指定するには、**mem=xxxM** パラメータを使用することができます、**xxx** には正しい RAM の量を指定します。例えば **mem=256M** は 256MB の RAM を指定します。

2.3.4. ダイナミック パーティション

Microsoft Windows でハード ディスクを#####形式から#####形式に変換済みの場合、このディスクには Mageia をインストールすることはできません。##### ディスクに戻すには、Microsoft のドキュメントを参照してください: <https://web.archive.org/web/http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc776315.aspx>

3. 使用する言語を選択する

- はじめに、あなたのいる大陸についての一覧を展開して言語を選択します。Mageia はインストールの間とインストール後のシステムにこの選択を適用します。
- システムに幾つかの言語がインストールされることをあなた (や他のユーザ) が必要としている場合、#####を用いてここでそれらを追加するのがよいでしょう。インストール後に言語サポートを追加するのは困難です。



複数の言語を選択した場合であっても、はじめに主な言語の一覧からいずれかをお好みの言語として選ばなければなりません。これは#####の画面でも選択済みとマークされます。

- お使いのキーボードの言語がお好みの言語と同じでない場合、キーボードが要求する言語も同様にインストールするのが望ましいです。
- Mageia は既定で UTF-8 (Unicode) をサポートしています。これはあなたの言語で適切でないと分かっている場合に#####画面で無効にすることができます。UTF-8 を無効にするとすべてのインストール済みパッケージに適用されます。
- お使いのシステムの言語はインストール後に Mageia コントロール センター # システム # システムの言語を設定 で変更できます。

4. 使用許諾契約とリリース ノート

4.1. 使用許諾契約の同意

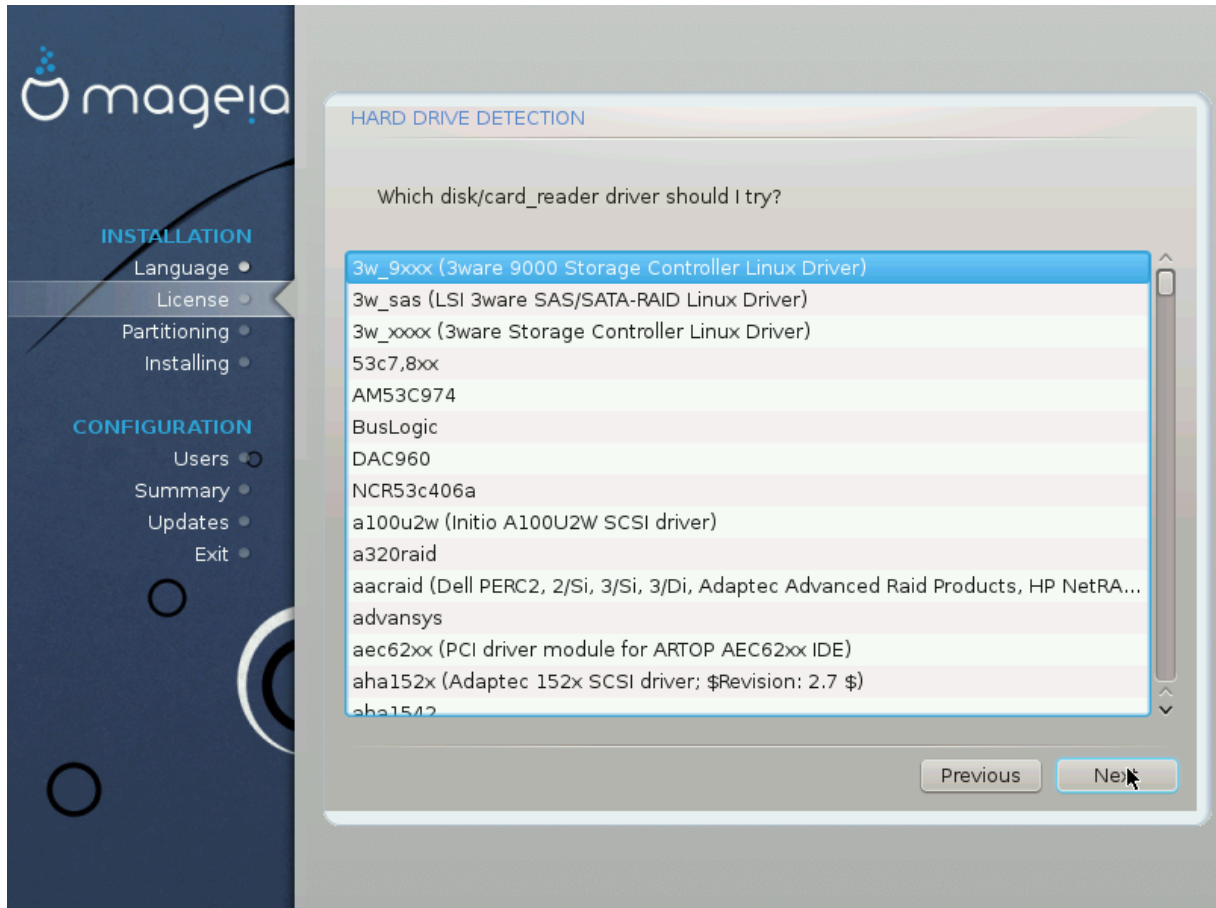
- Mageia をインストールする前に使用許諾契約の内容をよくお読みください。
- これらの使用許諾契約の内容は、Mageia ディストリビューション全体に適用され、あなたは続行する前にこれらに同意しなくてはなりません。
- 続行するには、単純に#####を選択して##をクリックします。

もしこれらの条件を承諾しないと決めたのであれば、私たちはあなたが Mageia に興味をお持ちいただいたことに感謝します。##をクリックするとコンピュータは再起動します。

4.2. リリース ノート

この特定の Mageia リリースについての重要な情報は#### ## ボタンをクリックすることで参照できます。

5. SCSI を設定する



DrakX は通常正しくハード ディスクを検出します。しかしながら、幾つかの古い SCSI コントローラでは正しいドライバを特定することができずにその後ドライブの認識に失敗するかもしれません。

お使いのデバイスが認識されない場合、手動で DrakX にお持ちの SCSI ドライブを知らせる必要があります。そうすれば DrakX は正しくドライブを設定できるはずです。

6. インストールもしくはアップグレードを行う



• インストール

Mageia を一からインストールするにはこの選択肢を使用します。これは root パーティション (/) をフォーマットしますが、既存の /home パーティション (root (/) パーティション自体の一部ではなく、専用の /home パーティション) が分かっていたらこれをそのままにできます。

• アップグレード

インストール済みの Mageia をアップグレードするには、これを選択してください。

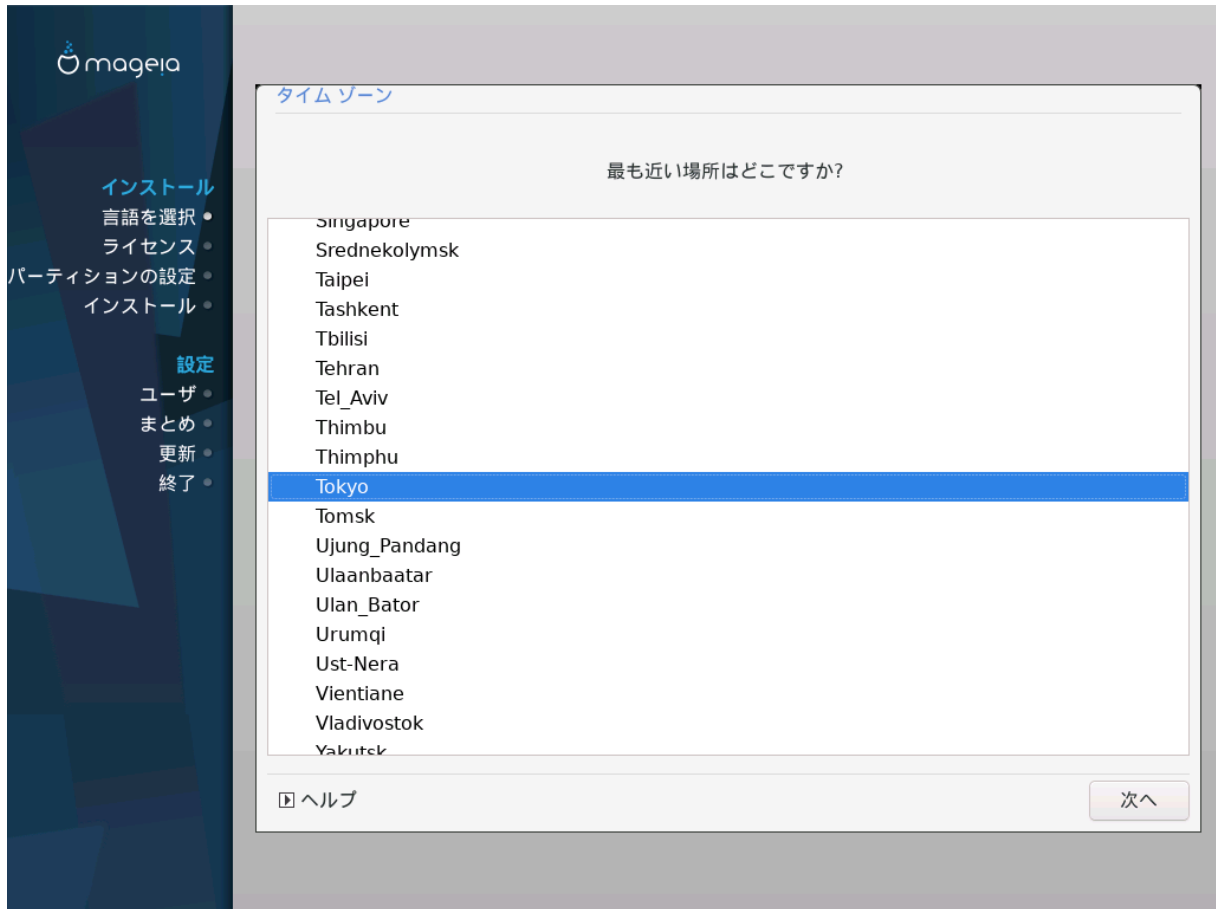


このインストーラのバージョンが公開された時点で#####過去の Mageia のバージョンからのアップグレードのみしか十分にテストされていません。これが公開された時点で既に「サポートが終了」しているバージョンの Mageia をアップグレードしたい場合は、/home パーティションを保持して「クリーン」インストールを行うのがよりよいでしょう。



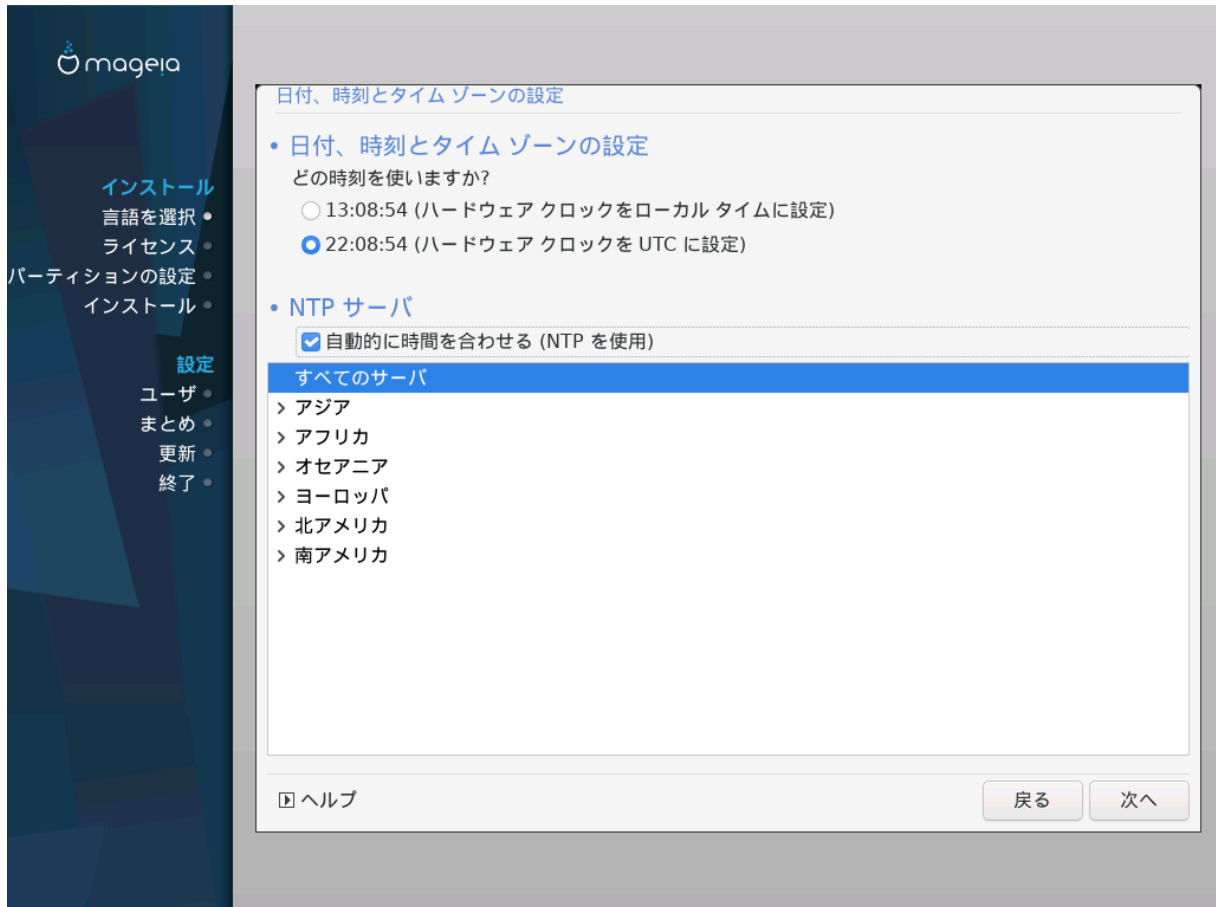
追加の言語を選択し忘れたことに気づいた場合、**Ctrl+Alt+Home** を押すことで#####の画面から言語選択画面に戻ることができます。インストールの後のステップになってからはこれを行わないでください。

7. タイムゾーンを設定する



- Select your timezone by choosing your country, or a city close to you in the same timezone.
- In the next screen you can configure your hardware clock and enable time synchronization.

8. Date, Clock and Time Zone Settings



- In this screen, you can choose between setting your hardware clock to UTC or to local time.
- Something else you can do here, is to enable automatic time synchronization with NTP. For that to work, you need to select an NTP server. Choose one that is close to you.



If you have more than one operating system on your computer, make sure they are all set to local time, or all to UTC.

9. キーボード

DrakX はあなたの使用する言語向けに適切なキーボードを選択します。適したキーボードが見つからない場合はアメリカ式のキーボード配列が既定になります。



- 選択が正しいかを確認し、間違っていれば別のキーボード配列を選択します。お使いのキーボードがどの配列か分からない場合、お使いのシステムに付属した仕様を見るか、コンピュータのベンダに確認してください。配列を識別するラベルがキーボードに貼ってある場合もあります。こちらも参照できます: ja.wikipedia.org/wiki/キー配列 [https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AD%E3%83%BC%E9%85%8D%E5%88%97]
- 表示される一覧にお使いのキーボードがない場合、##をクリックしてより完全な一覧を表示し、そこでお使いのキーボードを選択します。



##ダイアログからキーボードを選択した後、最初のキーボード選択に戻り、その画面からキーボードが選択されたように見えます。これは無視してインストールを進めることができます: 完全な一覧から選択されたキーボードが適用されます。

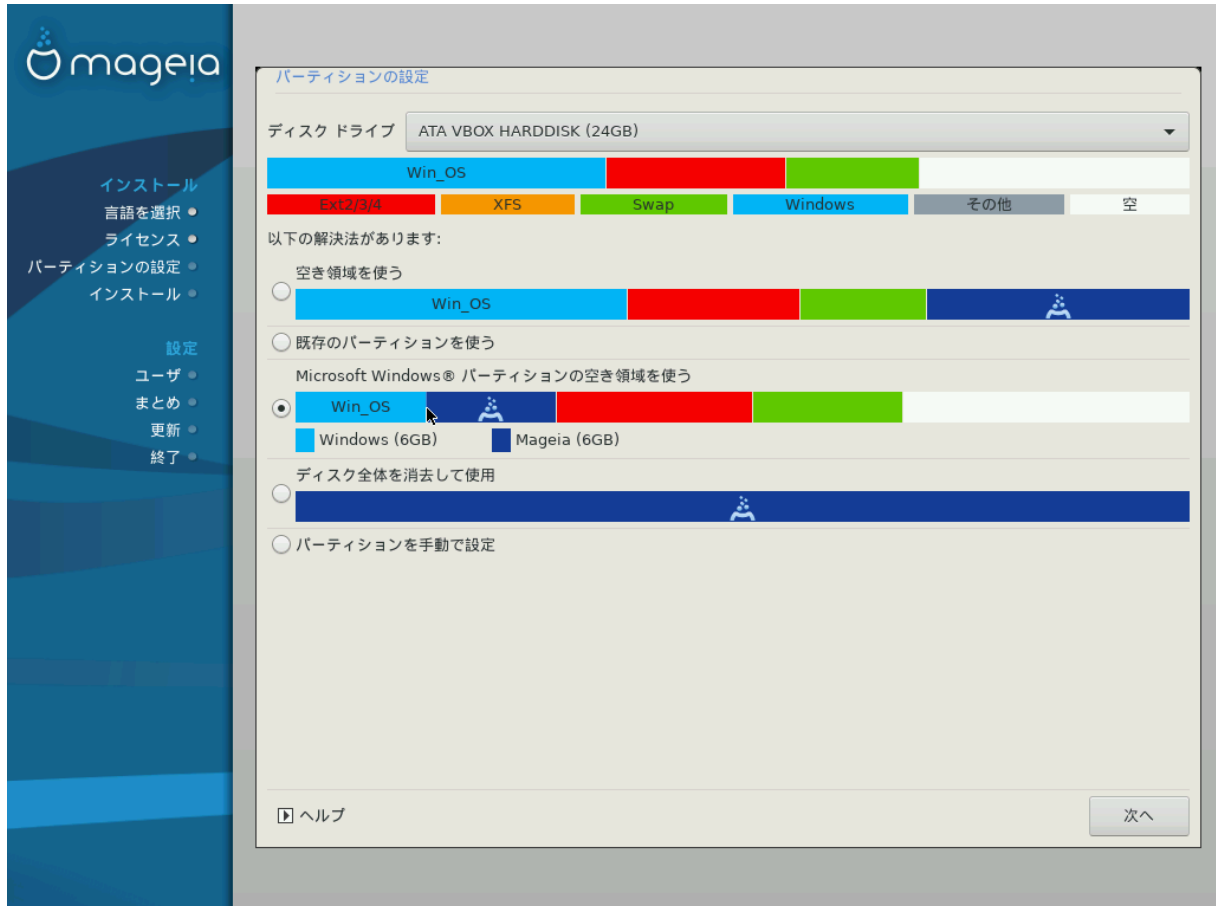
- 非ラテン文字に基づくキーボードを選択した場合、ラテンと非ラテンのキーボード配列をどのように切り替えたいかを質問する追加のダイアログが表示されます。

10. パーティションの設定

10.1. 自動パーティション設定

この画面ではお使いのハードドライブの内容を DrakX による Mageia のインストール先の提案と一緒に見ることができます。

下に示された中から実際に利用可能な選択肢は、お使いの特定のハードドライブのレイアウトや内容によって変化します。



#####

- **既存のパーティションを使う**

この選択肢が利用できる場合、既存の Linux 互換のパーティションが見つかっており、インストールに使用できます。

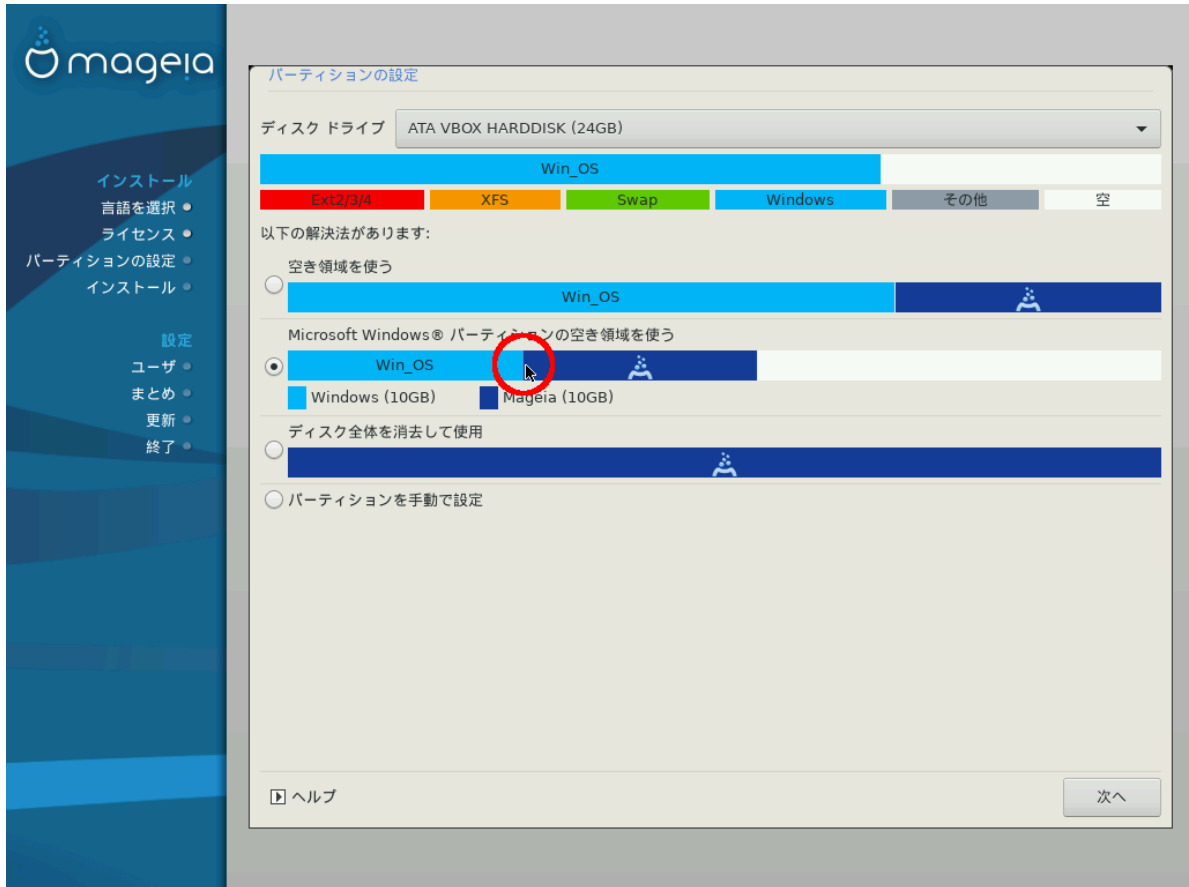
- **空き領域を使う**

お使いのハード ドライブに未使用の領域がある場合にこの選択肢はそこを新しい Mageia のインストールに使用します。

- **Windows パーティションの空き領域を使う**

既存の Windows パーティションに空き領域がある場合、インストーラはこれを使用することを提案するかもしれません。これは新しく Mageia をインストールする領域を作成するための有用な方法になりえますが後述の警告を参照してください。

この選択肢では、インストーラは残っている Windows パーティションを明るい青色で、Mageia 用に提案されたパーティションを暗い青色で、それぞれサイズも反映して下に表示します。これらのサイズは両方のパーティションの隙間のクリックとドラッグで変更できます。次のスクリーンショットをご覧ください:



これは Windows のパーティションのサイズを縮めることを伴い、それ故にリスクを伴う操作となります。そのため、続行する前にすべての大事なファイルを実際にバックアップしておくべきです。



パーティションは "クリーン" でなければならず、これは Windows を前回使用したときに正常に終了していなければならないことを意味します。また、このパーティション内のすべてのファイルがこれから Mageia 用に使用する領域から出ていくという保証ではないもののデフラグもされている必要があります。

- **ディスク全体を消去して使用**

この選択肢ではドライブの全体を Mageia 用に割り当てます。



これは選択されたハード ドライブ上のすべてのデータを削除します。気をつけてください! ディスクの一部を他の用途で使用するつもりであるか、もしくは既にドライブ上にデータがあってそれが削除されることに備えていない場合、この選択肢は使用しないでください。

- **パーティションを手動で設定**

これはお使いのハード ドライブ上のインストール場所を完全にコントロールすることができます。

#####を選択しない場合、インストーラは利用可能な領域を以下のルールに従って割り当てます:

- 合計空き領域が 50 GB 未満の場合、パーティションが一つだけ作られます。これは / (ルート) パーティションになります。
- 合計空き領域が 50 GB を超える場合、三つのパーティションが作成されます。
 - 合計空き領域の 6/19 が / に最大で 50 GB 割り当てられます。
 - 1/19 が #### に最大で 4 GB 割り当てられます。
 - 残り (最低でも 12/19) が /home に割り当てられます。

これは 160 GB を超える空き領域がある場合にインストーラが三つのパーティションを作成することを意味します:

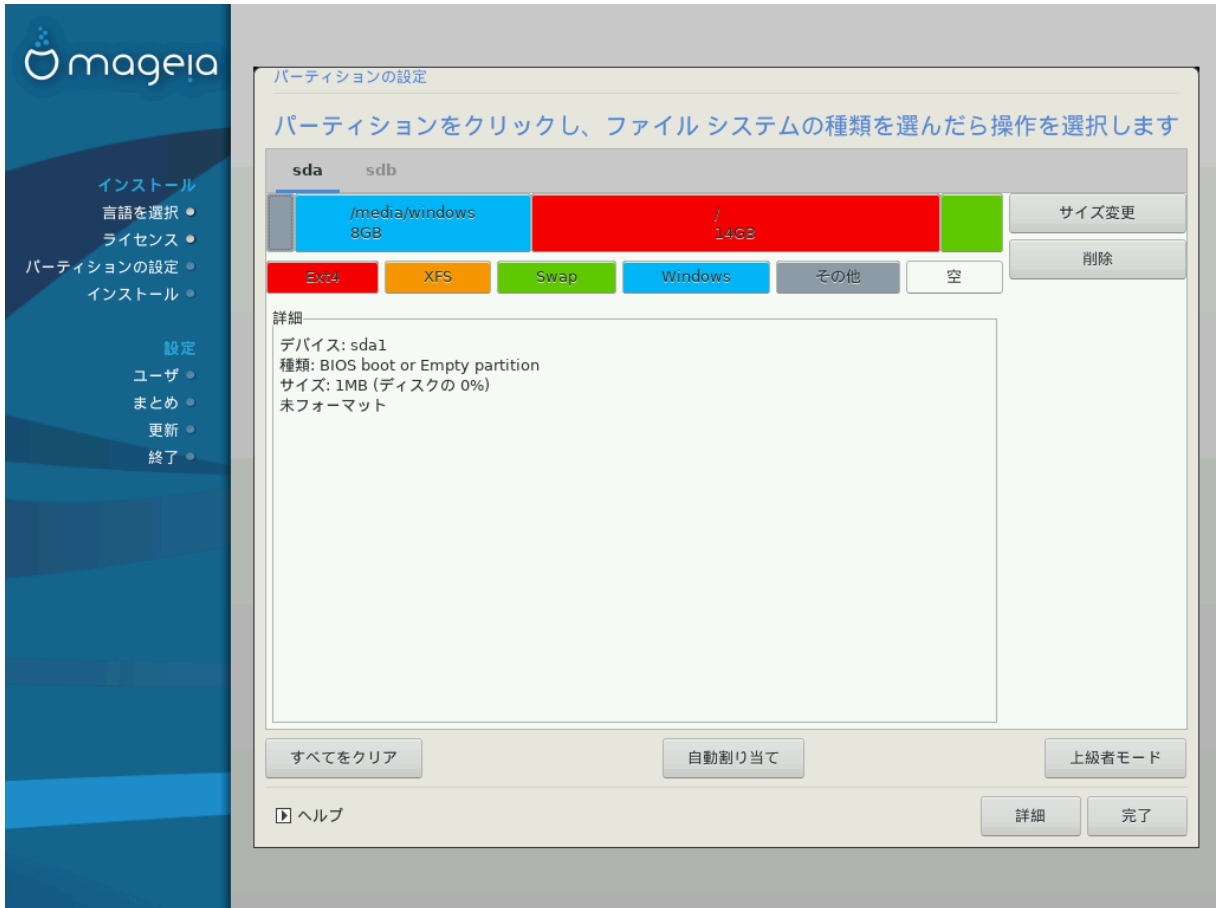
- / 用に 50 GB
- ####用に 4 GB
- /home 用に残りすべて

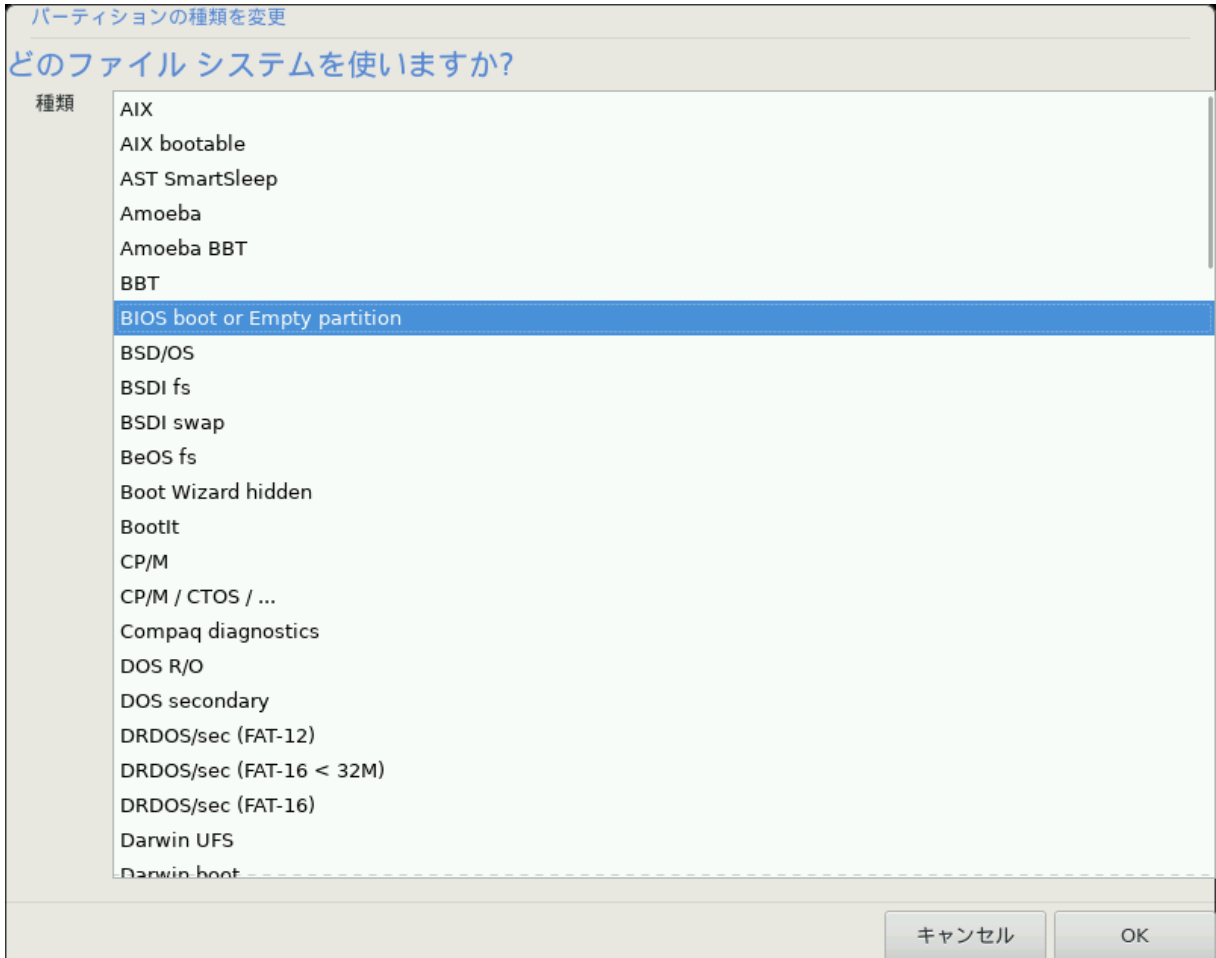


UEFI システムをお使いの場合、ESP (EFI システム パーティション) が自動的に検出され - 存在しなければ作成されて - /boot/EFI にマウントされます。これが正常に行われたかをチェックする唯一の方法は#####を選択することです。

Legacy (別名 BIOS) システムで GPT を用いたディスクをお使いの場合、BIOS ブートパーティションが存在しなければこれを作成する必要があります。これはマウントポイントのない約 1 MiB のパーティションとするべきです。#####でファイルシステムの種類を「BIOS boot partition」にすると、インストーラが他のパーティションのようにこれを作成することができます。

続行する方法の詳細は [DiskDrake](#) を参照してください。





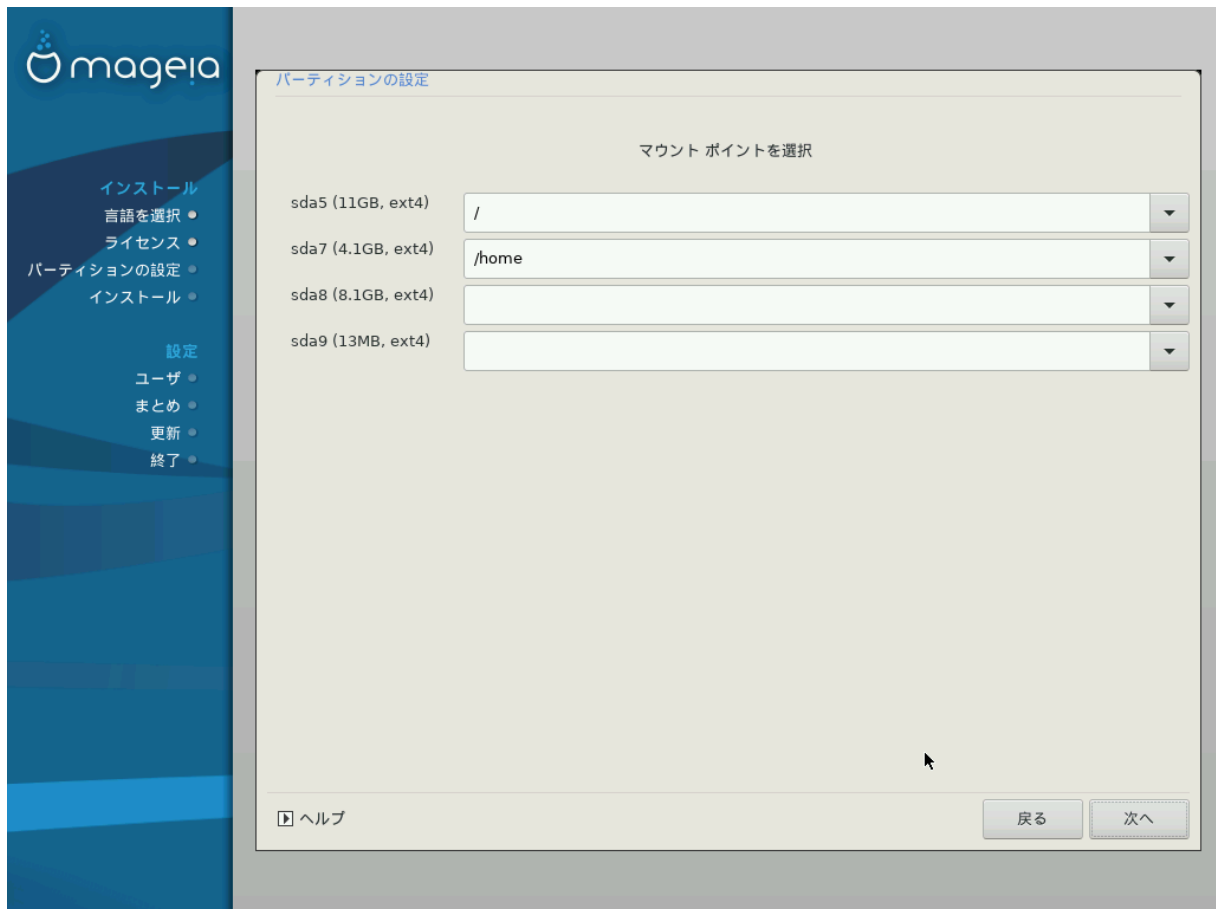
幾つかの新しいドライブは従来の標準である 512 バイトの論理セクタの代わりに 4096 バイトの論理セクタを現在使用しています。利用可能なハードウェアが不足しているため、インストーラで用いられるパーティション管理ツールはこのようなドライブをテストしていません。

幾つかの SSD デバイスは現在 1 MB より大きな削除ブロック サイズを使用しています。そのようなデバイスをお持ちの場合、私たちは gparted のような代替のパーティション管理ツールを用いて事前にドライブのパーティションを設定しておき、以下の設定を用いることを提案します:

- ##### = MiB
- ##### (MiB) = 2

すべてのパーティションが偶数のメガバイト単位で作成されていることも確認してください。

10.2. マウント ポイントを選択する



ここでお使いのコンピュータ上で見つかった Linux パーティションが見られます。DrakX が提案する内容を承諾しないのであれば、自分でマウント ポイントを変更することができます。

- ドロップ ダウン メニュー群の左側にあるのは利用可能なパーティションの一覧です。例: sda はハード ドライブで - 5 は#####、これにパーティションの (##, #####, #####) が続きます。
- 幾つかのパーティションがある場合、異なる複数の#####をドロップ ダウン メニューから /, /home, /var のように選択できます。自分でマウント ポイントを入力することも可能で、例えば映画保存用の /video や、データ保存用の /Data などです。
- 使用する必要のないパーティションに対しては、マウント ポイントの欄を空白にすることができます。



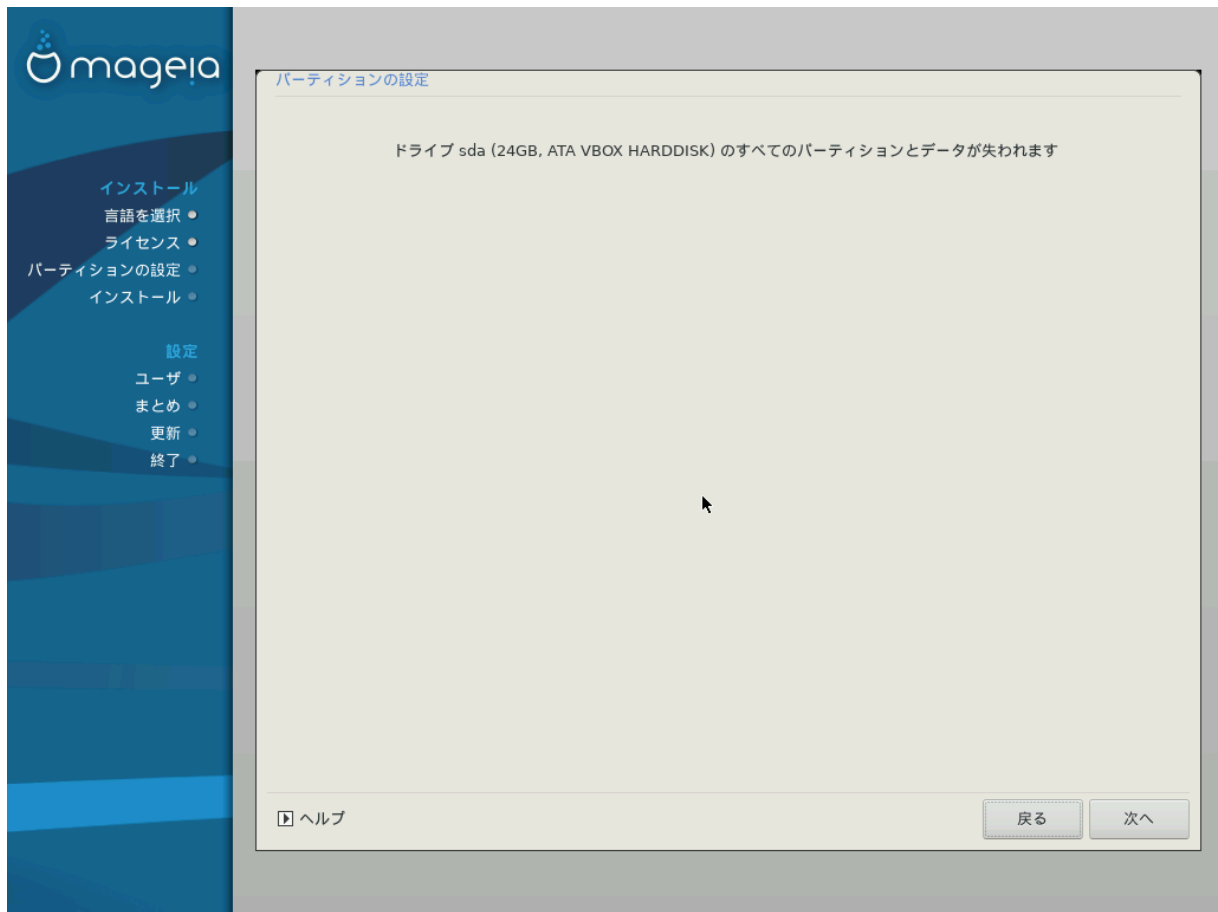
ここで変更を行った場合、/ (ルート) パーティションが存在していることを確認してください。



どれを選択するか分からない場合、##をクリックして戻り、#####をクリックしてください。そこでは、パーティションをクリックするとその種類とサイズが参照できます。

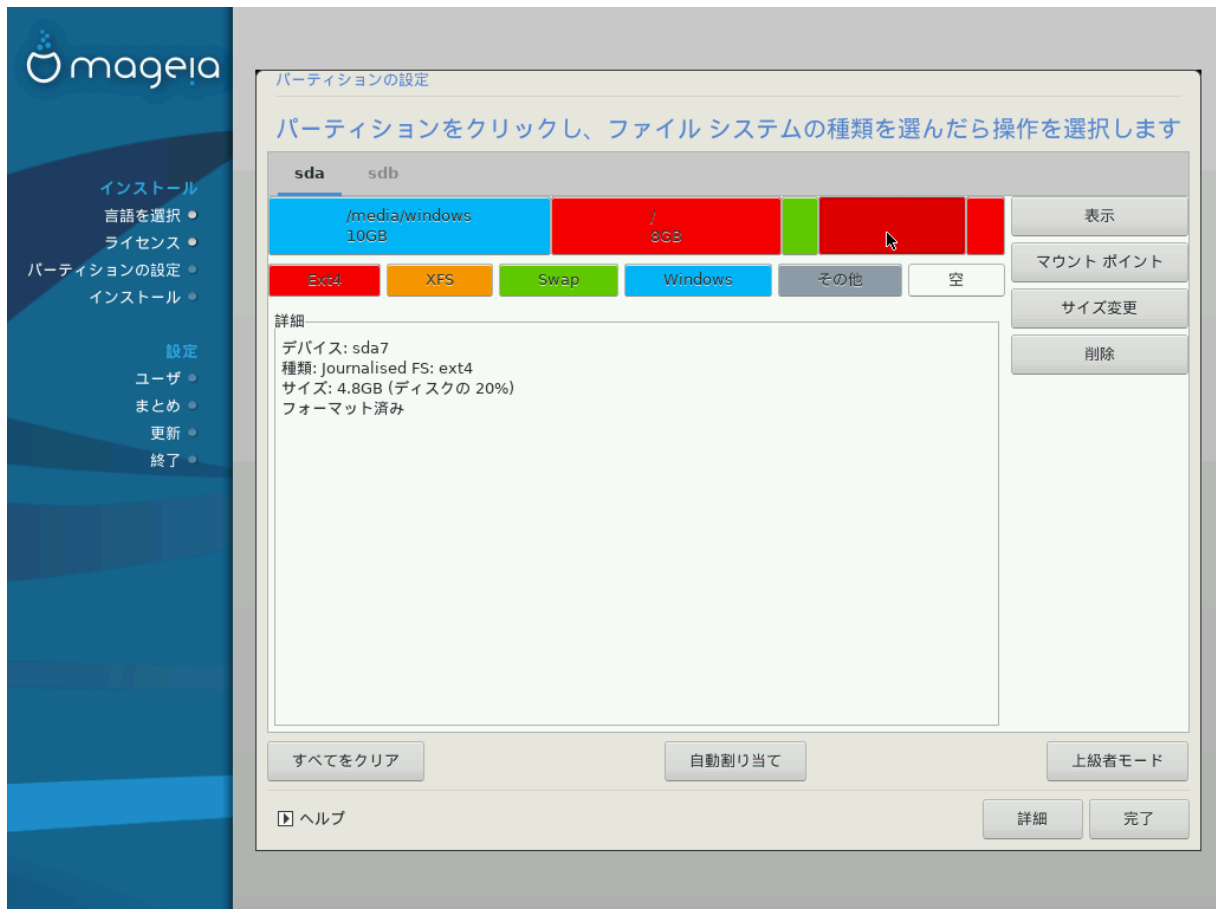
マウント ポイントが正しいことが確認できたら、##をクリックし、DrakX が提案するパーティションのみをフォーマットするか他のパーティションもフォーマットするかを選択します。

10.3. ハード ディスクをフォーマットするか確認する



- 選択に全く自信がなければ##をクリックします。
- ハード ディスク上のすべてのパーティション, すべてのオペレーティング システム, すべてのデータを削除して構わないのであれば##をクリックして続行します。

10.4. DiskDrake によるパーティションのカスタム設定



- ここでお使いのディスクのレイアウトを変更します。パーティションの削除や作成を行ったり、パーティションのファイルシステムやサイズを変更したり、そして処理前にそれらの詳細を見ることさえできます。
- 検出された各ハードディスク (または他の USB キーのようなストレージ デバイス) の上部にタブがあります。例えば: sda, sdb, sdc などです。
- 他のすべての操作: はじめにパーティションをクリックします。次に表示, ファイルシステムやマウントポイントの選択, サイズ変更, 削除を行います。##### はパーティションにラベル (名前) を付けたりパーティションの種類を選択したりといった追加の項目を提供します。
- すべてを満足いくまで調整し終わるまで続けた後、準備ができたなら##をクリックします。

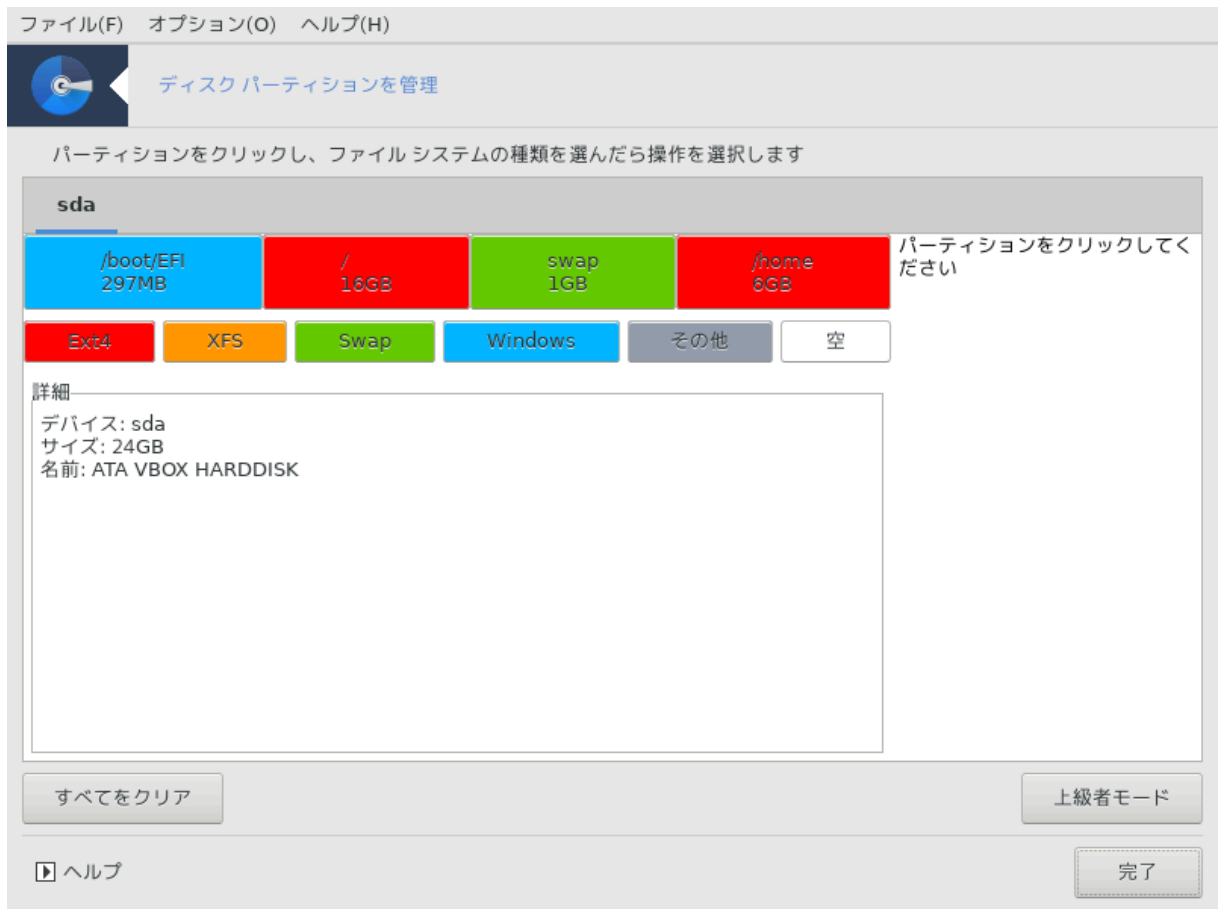


1. #####の項目には注意してください、これは選択されたストレージ デバイス上のすべてのパーティションを削除する場合にのみ使用します。
2. /パーティションを暗号化したい場合、これとは別に /boot パーティションがなければなりません。/boot パーティションに対する暗号化は設定してはならず、設定した場合はお使いのシステムは起動不能になります。

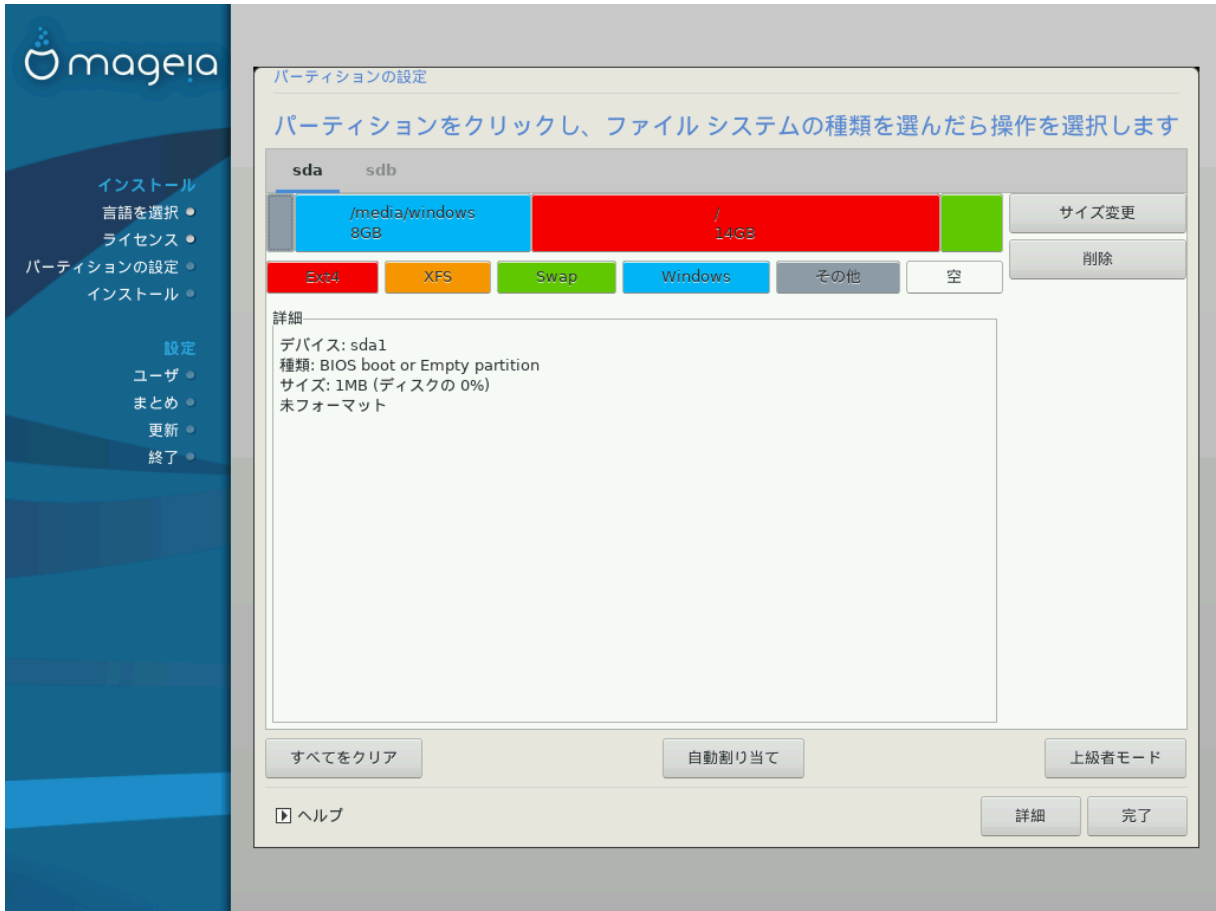


- Mageia を UEFI システムにインストールしている場合、ESP (EFI システムパーティション) が存在し、/boot/EFI に正しくマウントされているかをチェックしてください。下の図 1 を参照してください。

- Mageia を Legacy/GPT システムにインストールしている場合、BIOS ブートパーティションが存在し、種類が正しいことをチェックしてください。下の図 2 を参照してください。



#1 EFI #####



#2 BIOS ### #####

10.5. フォーマット



ここではフォーマットしたいパーティションを選択できます。フォーマット指定をして###パーティション内のデータは残ります。

通常、少なくとも DrakX が選択したパーティションはフォーマットする必要があります。

##をクリックすると、いわゆる#####のチェックをしたいパーティションを選択できます。



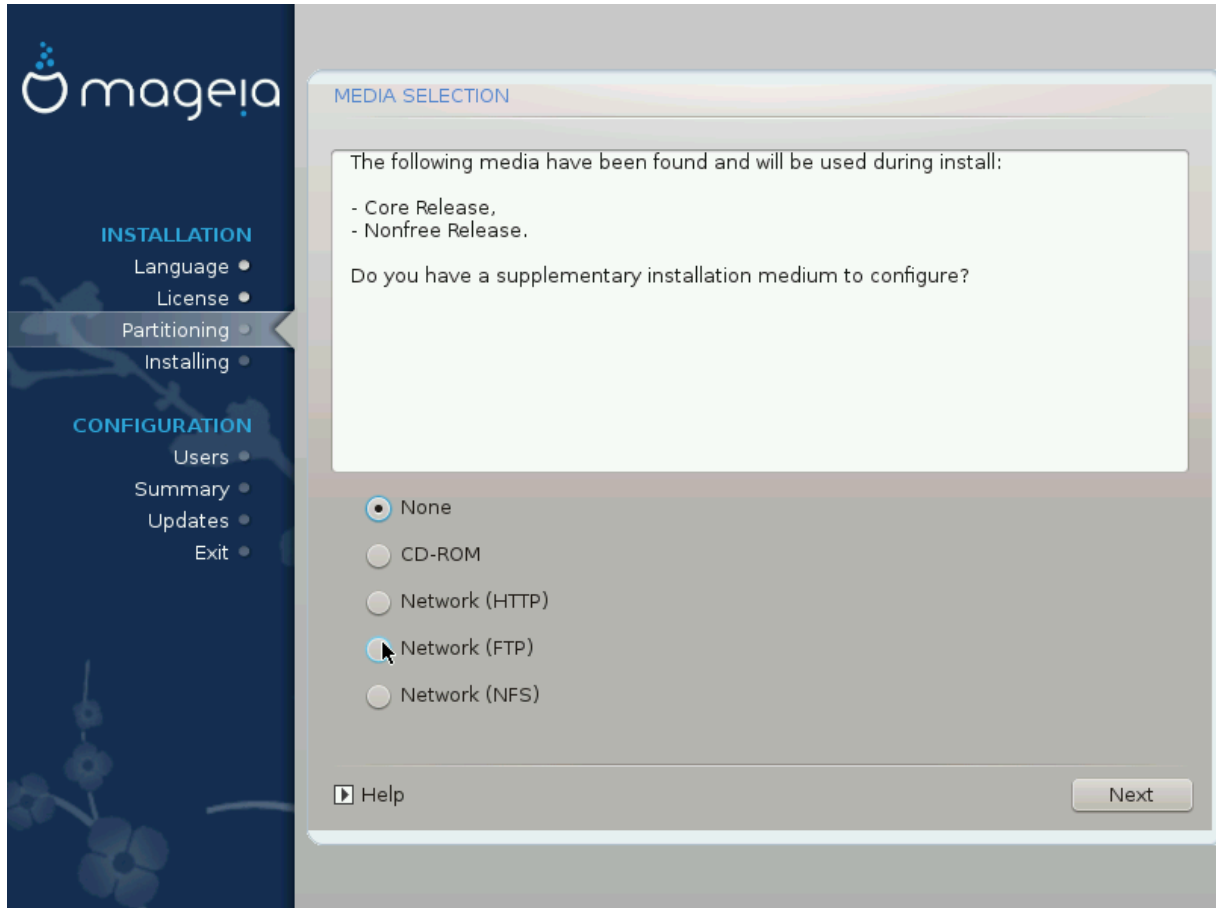
正しい選択をしたか自信がない場合、##をクリックして再度##をクリックし、次に##
##をクリックするとメイン画面に戻ります。この画面ではパーティションの内容を見
ることができます。

選択に自信があれば、##をクリックして先に進みます。

11. ソフトウェア

11.1. メディアの選択

11.1.1. 追加のインストール メディア



この画面は認識済みのリポジトリの一覧を示しており、光学ディスクやリモートのソースのような他のパッケージ入手先を追加できます。この入手先の選択は、以降のステップにおける利用可能パッケージに影響します。

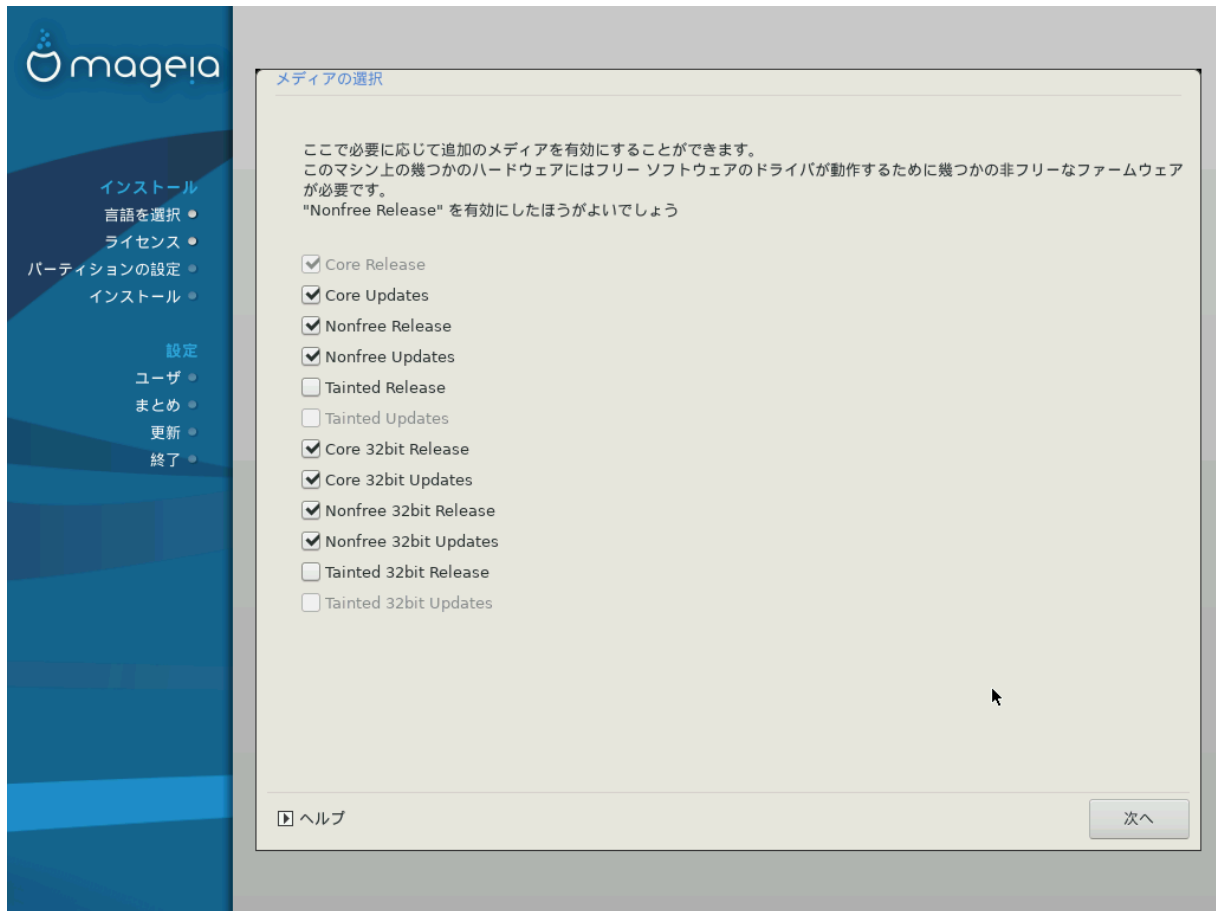
ネットワークソースでは、以下の2つのステップが続きます：

1. ネットワークが有効化されていなければ、選択および有効化を行います。
2. ミラーを選択するか、URL（一覧の一番上の項目）を指定します。ミラーを選択することで Mageia に管理されているすべてのリポジトリを選ぶことができ、*Nonfree*、*Tainted* といったリポジトリと、それぞれに更新を提供する *Updates* があります。URL を指定することで、特定のリポジトリやあなたの NFS インストールを指し示すことができます。



幾つかの 32 ビットのパッケージを含む可能性のある 64 ビット OS を更新する場合、この画面でいずれかのネットワーク プロトコルを選択してオンライン ミラーを追加するとよいでしょう。64 ビットの DVD iso には 64 ビットと *noarch* のパッケージしか含まれず、32 ビットのパッケージは更新できないでしょう。一方、オンライン ミラーを追加した後では、インストーラは必要な 32 ビットのパッケージを見つけることができるでしょう。

11.1.2. 利用可能なメディア



ここでは利用可能なリポジトリの一覧が表示されます。すべてのリポジトリが利用できるわけではなく、インストールに使用したメディアによります。リポジトリの選択は次のステップからのパッケージが選択可能となるかに影響します。

- *Core* リポジトリはディストリビューションの基本部分を含んでいるため、無効化できません。
- *Nonfree* リポジトリは無料のパッケージを含んでおり、言い換えると Mageia はこれらを再頒布しているのですが、これらはクローズド ソースのソフトウェアを含んでいます (なので名前が Nonfree なのです)。例えばこのリポジトリは nVidia や AMD のグラフィックス カード用のプロプライエタリ ドライバや、色々な WiFi カードなどのファームウェアを含んでいます。
- *Tainted* リポジトリは自由なライセンスで公開されているパッケージを含んでいます。このリポジトリにパッケージを配置する主な基準は幾つかの国で特許や著作権を侵害する可能性があることで、例えば色々な音声/動画ファイルを再生するのに必要なマルチメディア コーデックです; これは商用のビデオ DVD などです。

11.2. デスクトップの選択

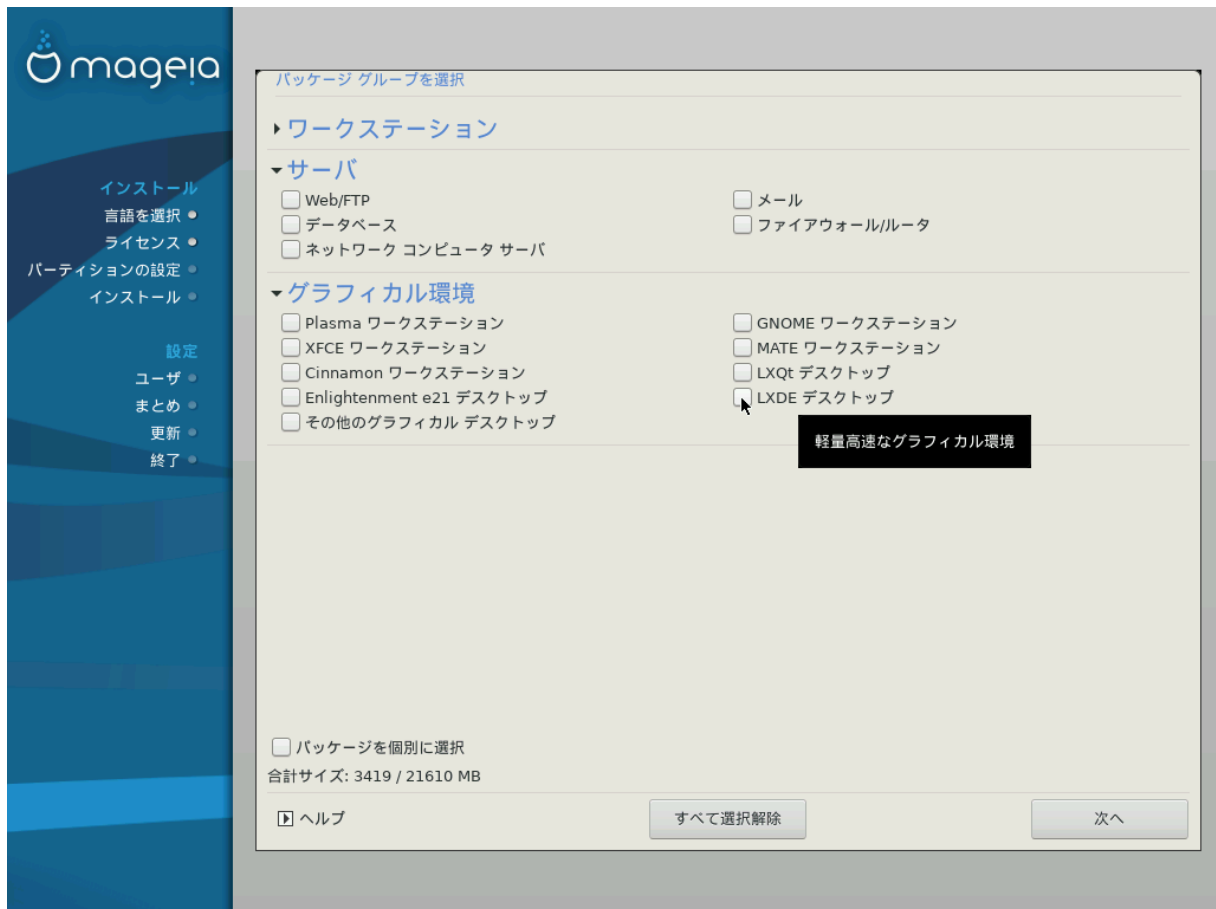
この選択内容によっては、関連する選択を行う別の画面が表示されます。

選択のステップの後、必要なパッケージのインストール中にスライドショーが流れます。このスライドショーは##ボタンを押すことで無効にできます。



- KDE Plasma が GNOME デスクトップ環境のどちらがお好みかを選択します。いずれも有用なアプリケーションとツールの一式が付属します。
- これらのいずれも使用しない (もしくは両方使用する) ことをお望みの場合、またはこれらのデスクトップ環境の既定のソフトウェアの選択内容を変更したい場合は#####を選択します。例えば LXDE デスクトップは前の二つよりも軽量で見た目は控えめとなり、インストールされる既定のパッケージも少なめです。

11.3. パッケージグループの選択



パッケージはグループ別に整理されており、システムに必要なパッケージはとても選びやすくなっています。グループは明白で分かりやすいですが、マウスを各項目の上に乗せたときに表示されるツールチップにはより詳しい情報が表示されます。

- ワークステーション
- サーバ
- グラフィカル環境
- パッケージを個別に選択: 手動でパッケージの追加や削除をするためにこの項目を使用することができます

最小構成インストールを行う方法の説明 (X や IceWM を含まない場合と含む場合) については [最小構成インストール](#) を参照してください。

11.4. 最小構成インストール

最小構成のインストールは Mageia をサーバや専門のワークステーションといった特定の用途を念頭に置いて使用することが意図されます。この選択はおそらくは#####と組み合わせて行うことになるでしょう。インストールを細かく調整するには、[パッケージ ツリーを選択する](#) を参照してください。

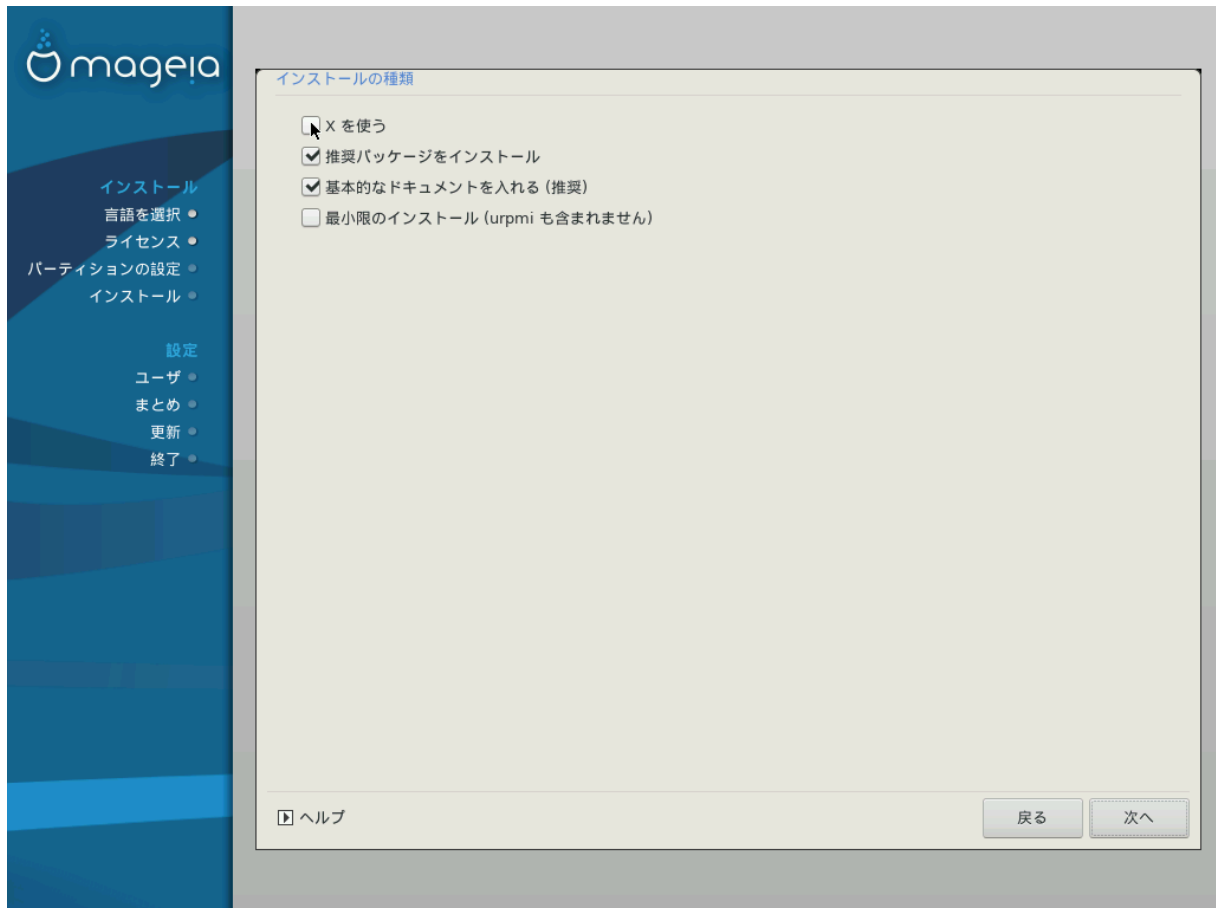
- ##### #####画面ですべてを選択解除することで#####を選択できます。[パッケージグループを選択する](#) をご覧ください。

お望みであれば、同画面の#####を追加でチェックすることができます。

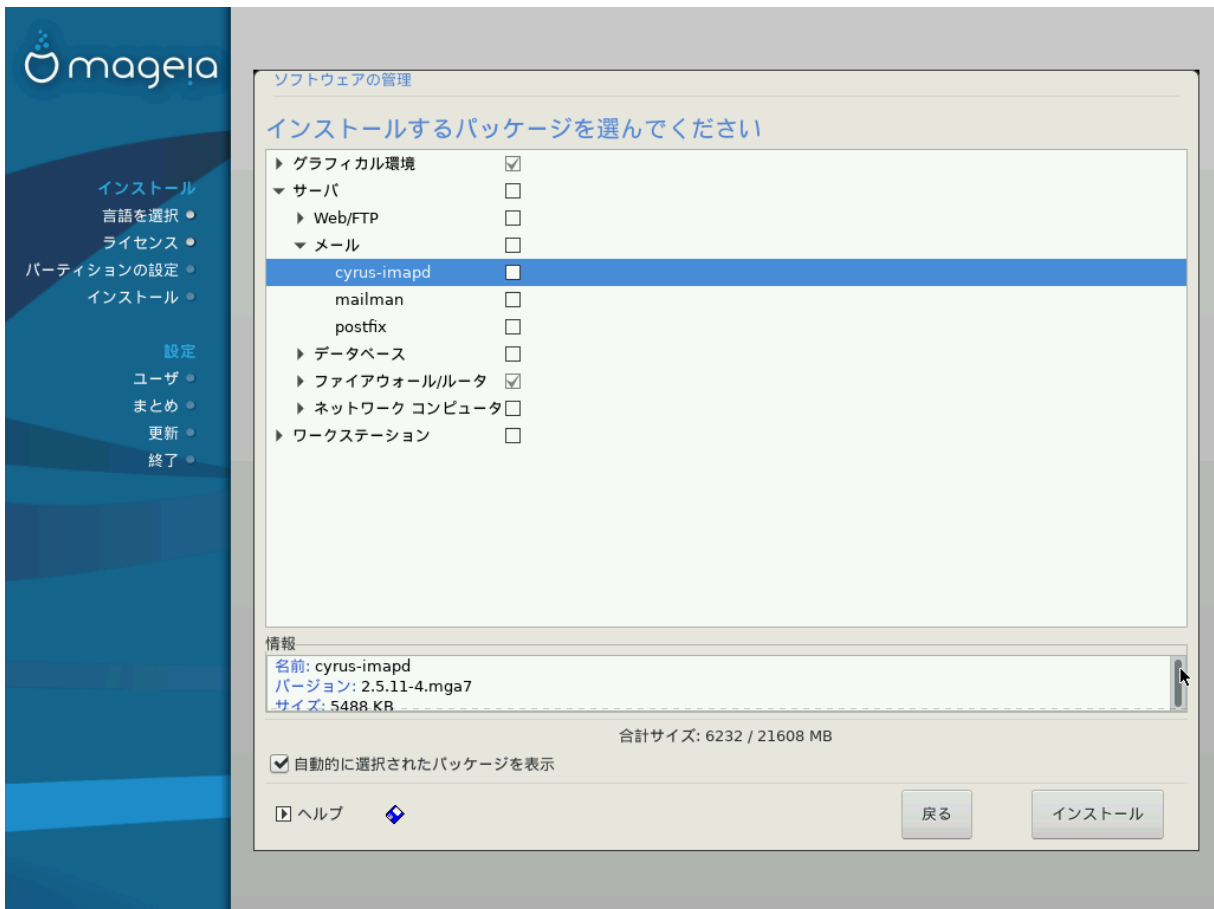
- このインストール方法を選択した場合、関連する画面（下のスクリーンショットを参照）でドキュメントや「X」のような有用な追加パッケージを少しインストールすることになるでしょう。

X ###を選択した場合、IceWM (軽量のデスクトップ環境) も含まれます。

基本的なドキュメントは「man」と「info」のページとして提供されます。これは [Linux Documentation Project](http://www.tldp.org/manpages/man.html) [http://www.tldp.org/manpages/man.html] の man ページと [GNU coreutils](http://www.gnu.org/software/coreutils/manual/) [http://www.gnu.org/software/coreutils/manual/] の info ページを含みます。



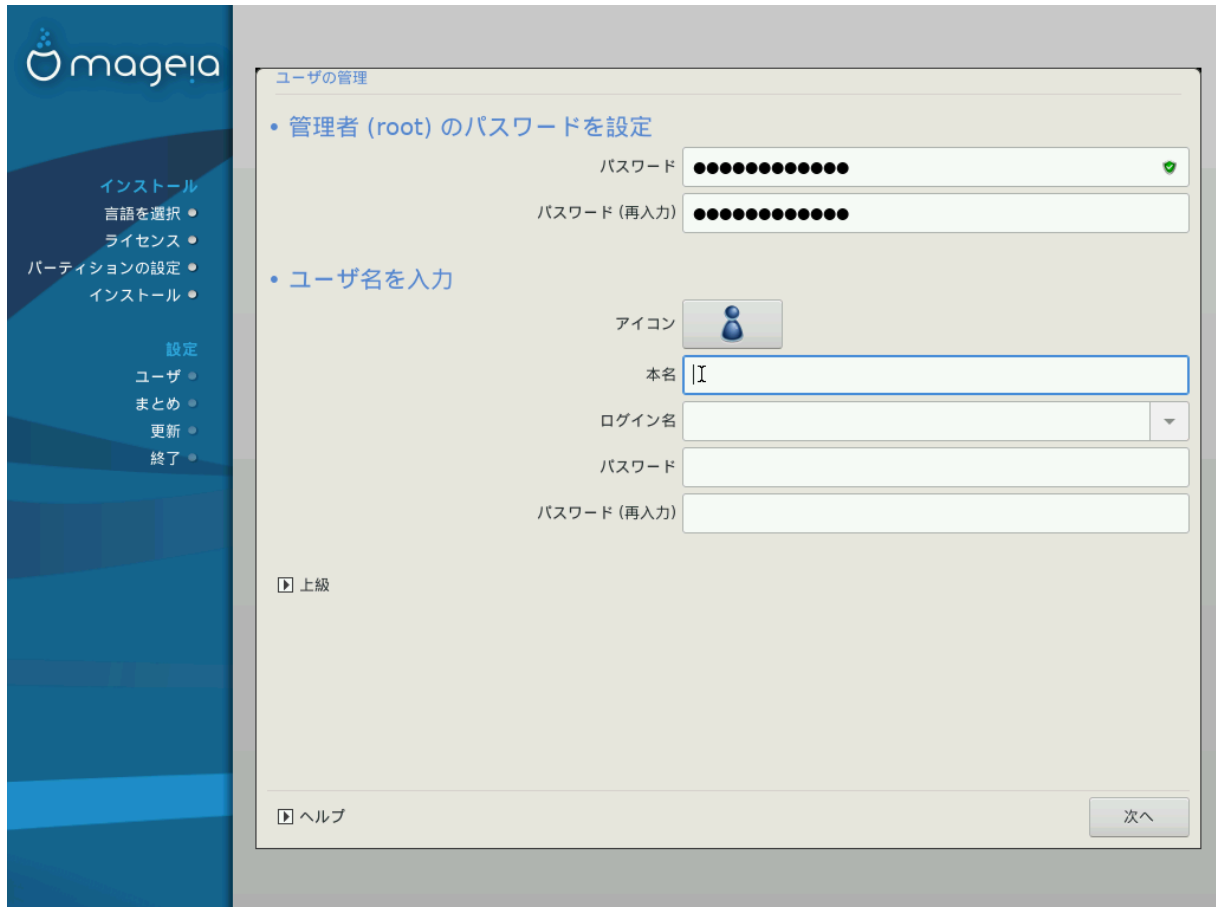
11.5. パッケージを個別に選択する



ここでインストールをカスタマイズするために追加でパッケージを追加したり削除したりすることができます。

選択を終えた後、ページ下部にある#####のアイコンをクリックすることでパッケージの選択情報を保存することができます (USB キーに保存することもできます)。別のシステムでこのファイルを使用して同一のパッケージをインストールすることができ、インストール時に同じボタンを押してこれを読み込みます。

12. ユーザの管理



12.1. 管理者 (root) のパスワードを設定する:

Mageia のインストールされたすべての環境で##### (管理者) のパスワードを設定することが望ましいです。これは通常、Linux の *root* パスワードと呼ばれます。最初のパスワードをタイプミスしていないかをチェックするために、下の入力欄に同じパスワードを繰り返し入力する必要があります。



一番上の入力欄にパスワードを入力すると、キーが押されるごとに盾がパスワードの強度によって赤色から黄色そして緑色へと変化します。緑色の盾は強固なパスワードを使用していることを示します。

すべてのパスワードは大文字と小文字を区別し、パスワードの中でアルファベット (大文字と小文字)、数字、他の文字を混在させて使うのが最適です。

12.2. ユーザを入力する

ここでユーザを追加します。通常ユーザは##### (root) よりも権限が少ないですが、インターネットやオフィス アプリケーションを使用したりゲームで遊んだり普通のユーザが自分のコンピュータで何か他のことを行ったりするには十分です。

• アイコン

このユーザのアイコンを変更したい場合にこのボタンをクリックします。

- 本名

このテキスト ボックスにこのユーザの本名を入力します。

- ログイン名

このユーザのログイン名をここに入力します。入力しない場合、DrakX がユーザの本名をもとにログイン名を決定します。このログイン名は大文字と小文字を区別します。

- パスワード

ユーザのパスワードを入力します (先述のアドバイスに従ってください)。

パスワード (再入力): ユーザのパスワードをこのテキスト ボックスに再度入力します。DrakX はあなたがパスワードをタイプミスしていないかをチェックします。



Mageia のインストール時に追加したユーザには、読み書きの両方で保護されたホーム ディレクトリ (umask=0027) が用意されます。

更に必要なユーザがあれば、インストールの## - ###のステップで追加できます。### ##を選択してください。

アクセス権はインストール後に変更することもできます。

12.3. ユーザの管理 (上級)

##ボタンでは、追加中のユーザに対する追加の設定を編集できます。

- ###: このドロップ ダウン リストでは前の画面で追加したユーザから使用できるシェルを変更できます。選択肢は Bash, Dash, Sh です。
- ### ID: ここでは前の画面で追加したユーザのユーザ ID を設定できます。これはその目的がはっきりしない場合は空欄のままにしてください。
- ##### ID: グループ ID を設定できます。こちらも目的がはっきりしない場合は空欄のままにしてください。

13. グラフィカル設定

13.1. グラフィックスカードとモニタを設定する



どのグラフィカル環境 (またはデスクトップ環境) をこの Mageia のインストールで選択したとしても、これらはすべて X Window System もしくは単に「X」と呼ばれるグラフィカル ユーザーインターフェース システムに基づいています。そのため、KDE Plasma, GNOME, LXDE または他の任意のグラフィカル環境が良好に動作するためには、以下の「X」の設定は正しいものである必要があります。

何も表示されなかったり、細かい部分が間違っていると考えられたりする場合は、正しい設定を選択してください。

- グラフィックスカード

必要があれば、この展開可能な一覧から特定のカードを選択できます。[X サーバを選択する \(グラフィックカードを設定する\)](#) を参照してください。

- モニタ

お使いのモニタが対応していればプラグ アンド プレイを選択でき、そうでなければ###もしくは##の一覧からお使いのモニタを選択します。お使いのモニタの水平走査周波数と垂直走査周波数を手動で設定したいのであれば、[モニタを選択する](#) を参照してください。

- 解像度

お使いのモニタの解像度と色深度をここで設定できます。

- テスト

このテスト ボタンはインストール時に必ず現れるものではありません。ボタンがある場合は設定をテストすると設定が正しいかを訊かれます。##と答えた場合、設定は保持されます。何も見えない場合、設定画面に戻ってテスト結果に満足するまですべての設定をやり直すことができます。テストの項目がない場合はあなたの設定が安全かを確認してください。

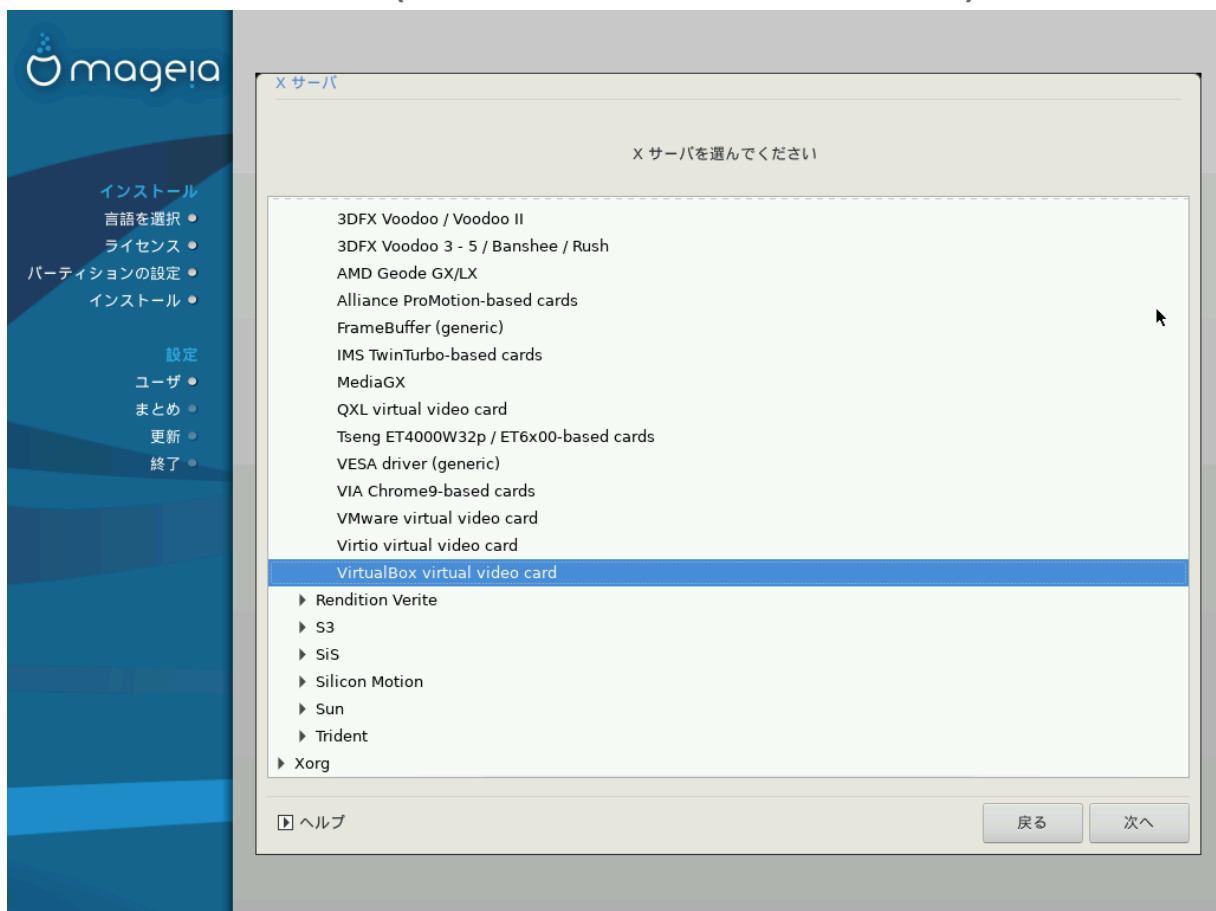
- オプション

ここで色々な項目を有効にしたり無効にしたりできます。



モニタの対応範囲外のリフレッシュ レートを選択すると、モニタを破損するおそれがあります。古い CRT ディスプレイがこれに当たります: 最近のモニタはサポートされない周波数を受け付けずに通常はスタンバイ モードに入ります。

13.2. X サーバを選択する (グラフィック カードを設定する)



DrakX は非常に広い範囲にわたるビデオ カードのデータベースを持っており、通常はお使いのビデオ デバイスを正しく識別します。

もしお使いのグラフィック カードをインストーラが正しく検出せず、かつあなたがお使いのカードを把握しているのであれば、以下によりツリーの一覧から選択することができます:

- ベンダ
- お使いのカードのメーカー
- カードのモデル

お使いのカードがベンダー一覧にない場合 (データベースに未登録か古いカード) は *Xorg* カテゴリから適したドライバが見つかるかもしれません。これは 40 を超える汎用的でオープン ソースなビデオ カード ドライバを提供します。それでもお使いのカード向けの特定のドライバが見つからない場合は基本的な機能を提供する VESA ドライバを使用するという選択肢があります。



非互換なドライバを選択した場合は#####しか利用できないという点に留意してください。

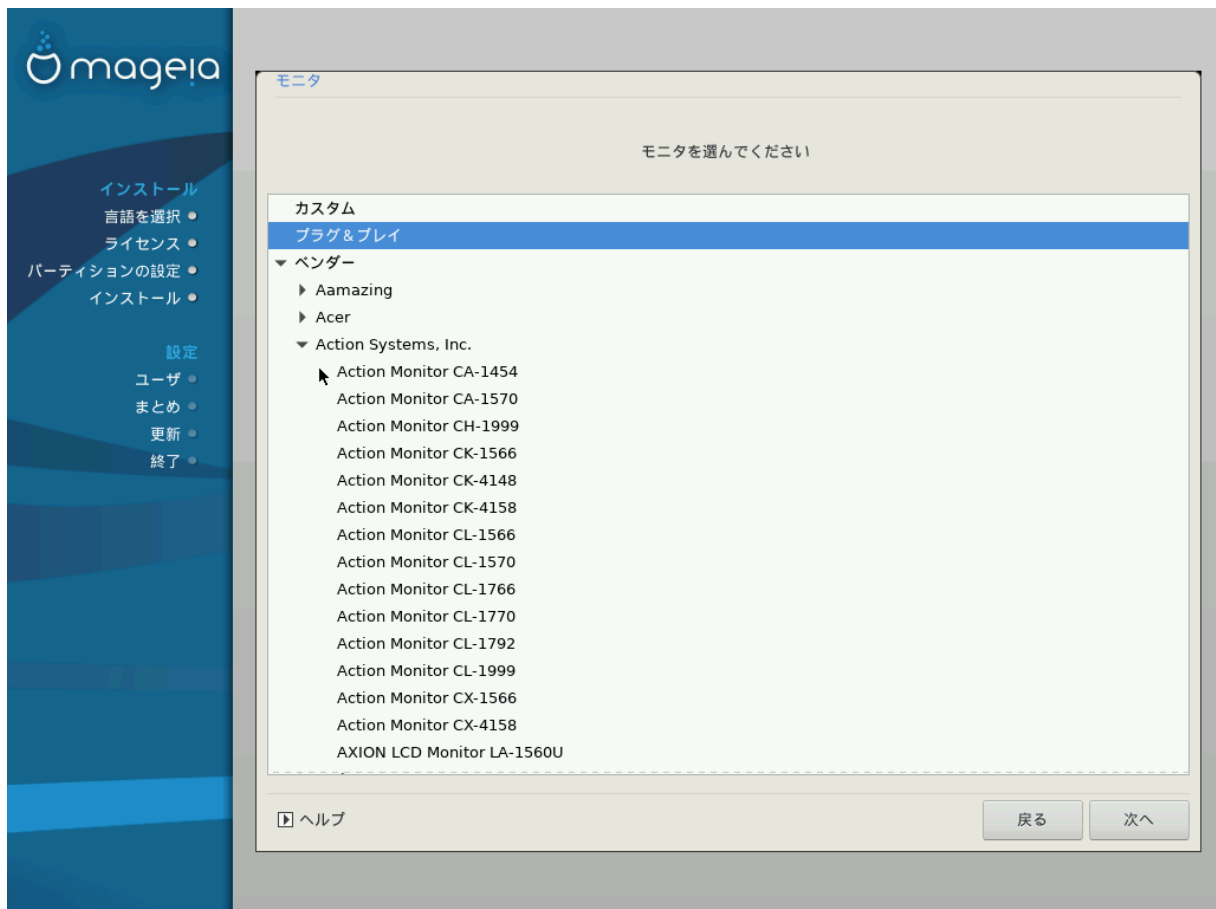
幾つかのビデオ カードのメーカーは *Nonfree* リポジトリでのみ利用可能な Linux ドライバを提供しており、場合によってはメーカーの Web サイトからしか入手できません。*Nonfree* リポジトリにアクセスするには、明示的に有効にする必要があります。以前にこれを有効にしていない場合、最初の再起動後にこれを行うのがよいでしょう。

13.3. モニタを選択する

DrakX は非常に広い範囲にわたるモニタのデータベースを持っており、通常はお使いのモニタを正しく識別します。



異なる特性のモニタを選択するとお使いのモニタやビデオ ハードウェアに損害を与える可能性があります。何をしているのか分かっている場合以外はいじらないでください。不明な点があれば、モニタの説明書をご覧ください。



- カスタム この項目では垂直走査周波数と水平走査周波数という二つの重要なパラメータの設定が行えます。垂直走査周波数は画面の更新頻度を決定し、水平走査周波数は走査線が表示される速度となります。
- お使いのモニタの許容範囲を超えた周波数になるモニタの種類を指定しないことは#####: モニタを破損する可能性があります。不明な点があれば、控えめな設定を選択した上でモニタの説明書をご覧ください。
- プラグ アンド プレイ これは既定の選択肢で、自動的にモニタのデータベースからモニタの種類の設定を試みます。
- ベンダ もしインストーラがお使いのモニタを正しく検出せず、かつあなたがお使いのモニタを把握しているのであれば、以下を選択することで一覧から選択することができます:
- メーカー
 - モニタのモデル
- このグループを選択すると 1024x768 @ 60Hz のような約 30 のディスプレイ設定が一覧表示され、ラップトップで使用されるフラット パネル ディスプレイも含まれます。これはお使いのビデオ ハードウェアが自動的に決定できずに VESA カード ドライバを用いる必要がある場合にしばしば有用なモニタ選択グループです。繰り返しますが、設定は控えめにするのが賢明でしょう。

14. ブートローダ

14.1. 利用可能なブートローダ

14.1.1. Grub2

レガシー MBR/GPT システム上の Grub2

- GRUB2 (グラフィカル表示ありとなし) は Legacy/MBR または Legacy/GPT のシステムで排他的に用いられます。
- 既定では、新しいブートローダは 第一ハード ディスクの MBR (Master Boot Record) または BIOS ブート パーティションに書き込まれます。

UEFI システム上の Grub2-efi

- UEFI システム用のブートローダとして GRUB2-efi または rEFInd が使用できます。
- 既定では、新しいブートローダ (Grub2-efi) は ESP (EFI System Partition) に書き込まれます。

UEFI に基づいたオペレーティング システム (例えば Windows 8) がお使いのコンピュータにインストール済みであれば、Mageia のインストーラは Windows に作成された既存の ESP を検出し、grub2-efi を追加します。ESP が存在しない場合、これが一つ作成されます。ESP は複数存在できますが、オペレーティング システムの数に関わらず一つだけが必要です。

14.1.2. rEFInd

UEFI システム上の rEFInd

- rEFInd は選択肢をグラフィカルに表示し、インストール済みの EFI ブートローダを検出することもできます。次を参照してください: <http://www.rodsbooks.com/refind/>



rEFInd の選択肢を使用できるようにするには、インストールされている EFI システムパーティションがお使いのシステムアーキテクチャに合っていない点にご留意ください: 例えば、64bit マシンに 32bit の EFI システムパーティションがインストールされている場合、rEFInd の選択肢は表示されず利用できません。

14.2. ブートローダの設定

14.2.1. ブートローダの主な設定

- 使用するブートローダ
 - GRUB2 (グラフィカルまたはテキストのメニュー) は、#### MBR/BIOS システムと UEFI システムで選択できます。
 - rEFInd (グラフィカル表示) は代替の選択肢で、UEFI システム専用です。
- 起動デバイス



これは何をしているのか本当に分かっているのであれば変更しないでください。



GRUB をパーティション (例: sda1) のブート セクタを書き込むことはできません。この方式は信頼できないと考えられているためです。

UEFI モードの使用時、起動デバイスは EFI システム パーティションとして表示されます。

- 既定のイメージが起動するまでの秒数

このテキスト ボックスでは既定のオペレーティング システムが開始する前に空ける秒数を設定できます。

- セキュリティ

ブートローダ用のパスワードを設定できるようにします。これはブート時に項目を選択したり設定を変更したりする際にユーザ名とパスワードを訊かれることを意味します。これは任意で、ほとんどの人々は使う必要がないでしょう。ユーザ名は root で、パスワードは後でここで決めたものです。

- パスワード

ブートローダのパスワードを決めます (任意)

- パスワード (再入力)

パスワードを再入力し、DrakX は上のパスワードと一致するかをチェックします。

##

- ACPI #####

ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) は電源管理の標準です。これは使用されていないデバイスを停止することでエネルギーを節約できます。チェックを外すと役に立つ可能性があり、例えば、お使いのコンピュータが ACPI をサポートしていないか、ACPI の実装が幾つかの問題を引き起こすとお考えの場合です (例えばランダムに再起動が起こったりシステムが固まったりする場合)。

- SMP #####

この項目はマルチ コア プロセッサで対称型マルチ プロセッシングを有効化 / 無効化します。

- APIC #####

これを有効にすると Advanced Programmable Interrupt Controller をオペレーティング システムから利用できるようになります。APIC デバイスはより複雑な優先度モデルや高度な IRQ (割り込み要求) の管理を可能にします。

- ##### APIC #####

ここでローカル APIC を設定でき、これは SMP システムにおいて特定のプロセッサに対するすべての外部割り込みを管理します。

14.2.2. ブートローダの設定

もし、前のセクションで rEFInd を使用するブートローダとして選択した場合、下のスクリーンショットに直接示した選択肢が表示されます。そうでない場合、代わりにその次のスクリーンショットに読み進めてください。

あなたの rEFInd の設定項目です:

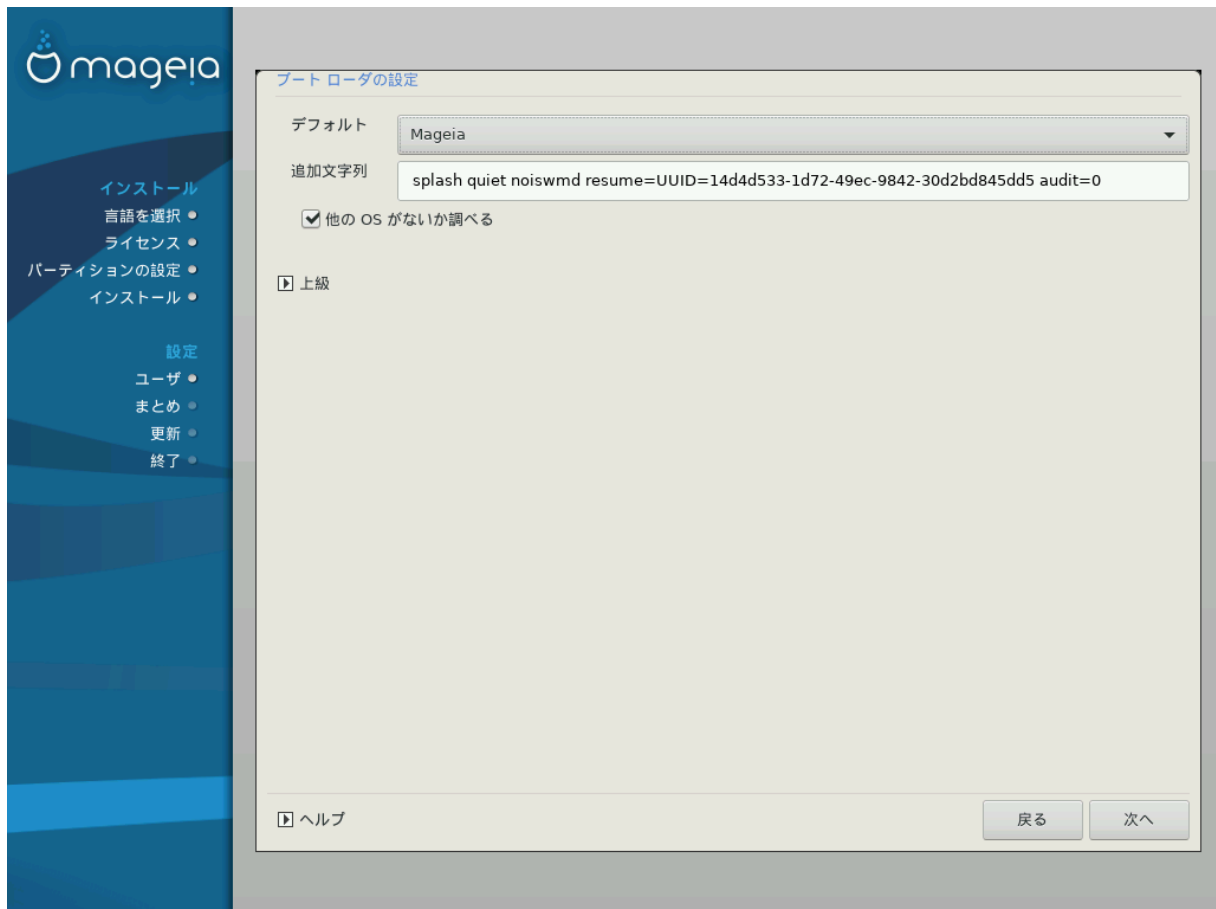
- EFI システム パーティションに rEFInd をインストールするか、またはこれを更新します。

- /EFI/BOOT にインストール

この項目は ESP (EFI System Partition) の /EFI/BOOT ディレクトリにブートローダをインストールします。これは以下の場合に有用です:

- (a) 取り外したり異なるマシンに差し込んだりできるリムーバブル ドライブ (例えば USB スティック) にインストールする場合。ブートローダが /EFI/BOOT に入っている場合、UEFI BIOS はこれを検出してそのドライブから起動することができるでしょう。
- (b) UEFI BIOS の不具合によって Mageia 用に新しく書き込まれたブートローダがインストールの最後に認識されない場合の問題回避。

前のセクションで rEFInd をブートローダとして使用する選択をしていない場合、あなたのブートローダ設定項目は以下に示されます:



- 既定

開始する既定のオペレーティング システムです。

- 追加文字列

この項目は起動の際にカーネルに情報を渡したり、あなたにより多くの情報を渡すようにカーネルに伝えたりします。

- 他の OS がないか調べる

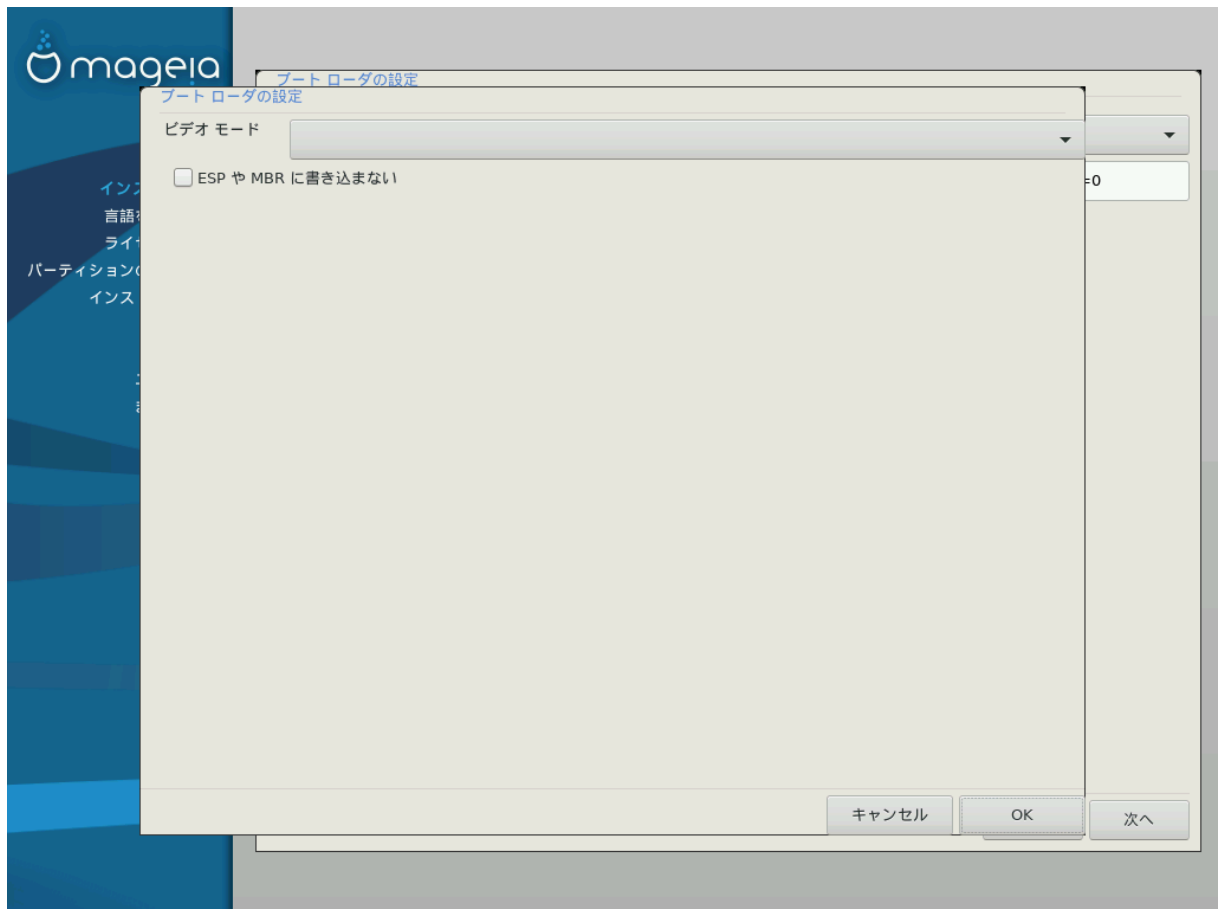
既に他のオペレーティング システムがインストールされている場合、Mageia はこれらを新しい Mageia のブート メニューに追加しようとしています。この動作を望まない場合、他の OS がないか調べるの項目を外します。

- /EFI/BOOT にインストール (メモ: このメニュー項目はマシンが UEFI モードであることをインストーラが検出した場合にのみ選択できるようになります)

この項目は ESP (EFI System Partition) の /EFI/BOOT ディレクトリにブートローダをインストールします。これは以下の場合に有用です:

- (a) 取り外したり異なるマシンに差し込んだりできるリムーバブル ドライブ (例えば USB スティック) にインストールする場合。ブートローダが /EFI/BOOT に入っている場合、UEFI BIOS はこれを検出してそのドライブから起動することができますでしょう。
- (b) UEFI BIOS の不具合によって Mageia 用に新しく書き込まれたブートローダがインストールの最後に認識されない場合の問題回避。

##



- ####

これはブートメニューで用いられる画面サイズと色深度を設定します。下向きの三角形をクリックするとサイズと色深度の他の項目が表示されます。

- ESP # MBR #####

Mageia をブート可能にせずに他の OS からチェイン ロードしたい場合にこれを選択します。ブートローダがないことが警告されます。その結果どうなるかを確かに理解しており、かつ続行したい場合にのみ Ok をクリックします。



レガシーなブートローダ (GRUB Legacy や LiLo) を通したチェーン ローディングは Mageia によってサポートされなくなりました。インストールした Mageia を起動しようとした際に失敗する可能性があるためです。この目的で GRUB2 や rEFInd 以外を使用する場合、自己責任で行ってください!

警告

ESP や MBR にインストールしないことは、インストールされたシステムが別の OS からチェーン ロードされない限り起動できないことを意味します!

OK

14.3. その他の項目

14.3.1. 既存のブートローダを使用する

Mageia を既存のブートローダに追加する正確な手順はこのドキュメントで扱う範囲外ですが、これはほとんどの場合において Mageia の検出とその起動のためのブートローダのメニューエントリの追加を自動的に行ってブートローダをインストールする適切なプログラムを実行することになるでしょう。関連するオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

14.3.2. ブートローダなしのインストール

ブートローダなしで Mageia をインストールすることを選ぶことは可能です (セクション 2.1 上級を参照)が、これはあなたが何をしているかを完全に分かっているでなければ推奨されず、何らかの形のブートローダがない限り、お使いのオペレーティングシステムは開始できません。

14.3.3. ブートメニュー項目を追加もしくは変更する

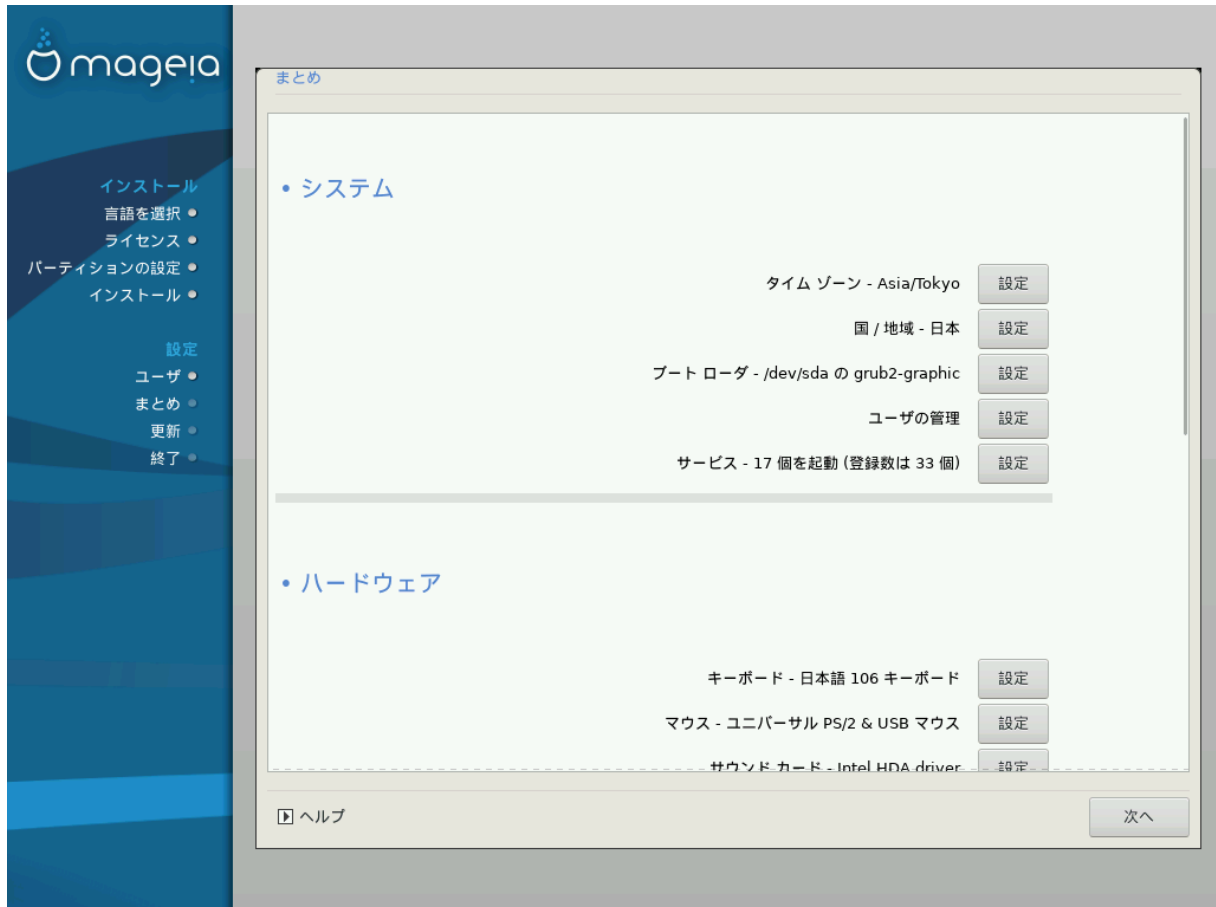
これを行うためには、`/boot/grub2/custom.cfg` を手動で編集する必要があります。もしくはソフトウェア **grub-customizer** (Mageia のリポジトリで利用できます) を代わりに使用します。



詳しい情報は、以下を参照してください:
[efi and Mageia](https://wiki.mageia.org/en/Grub2-efi_and_Mageia)

https://wiki.mageia.org/en/Grub2-efi_and_Mageia

15. 設定の概要



DrakX はあなたの行った選択と検出されたハードウェアによってお使いのシステムの設定を提案します。その設定はここで確認することができ、これらは##を押すと変更することができます。



原則として、既定の設定を受け入れることが推奨されますが、以下の場合は除きます:

- 既定の設定において既知の問題がある場合
- 既定の設定を既に試しているが失敗する場合
- 以下の詳細なセクションで触れられている何か他の要因が問題となる場合

15.1. システムのパラメータ

• タイムゾーン

If the time settings you chose before are wrong, you can correct them here. See also [タイムゾーンを設定する](#) and [Configure Timezone UTC](#)

• 国 / 地域

選択されている国にあなたがいない場合、この設定を修正することは非常に重要です。[国を選択する](#) を参照してください。

• ブートローダ

ブートローダ設定に対する DrakX による提案

GRUB2 の設定方法をご存知でなければ、何も変更しないでください。詳しい情報は、[ブートローダ](#) を参照してください。

- ユーザの管理

ここでユーザを追加することができます。各ユーザには自分の /home ディレクトリが用意されます。

- サービス

システム サービスとはバックグラウンドで動作するプログラム (デーモン) のことです。このツールでは特定のプロセスを有効化もしくは無効化できます。

ここにあるどれを変更するとしても、その前に慎重に確認してください - 間違えるとコンピュータが正しく動作しなくなるかもしれません。詳しい情報は、[サービスを設定する](#) を参照してください。

15.2. ハードウェアのパラメータ

- キーボード

あなたの場所, 言語, キーボード種別に合わせてキーボード配列の設定を行います。



キーボード配列が間違っているのに気づいてこれを変更したい場合、あなたのパスワードも変更されることになるということをご留意ください。

- マウス

ここで他のポインティング デバイス, タブレット, トラック ボールなどを追加したり設定したりできます。

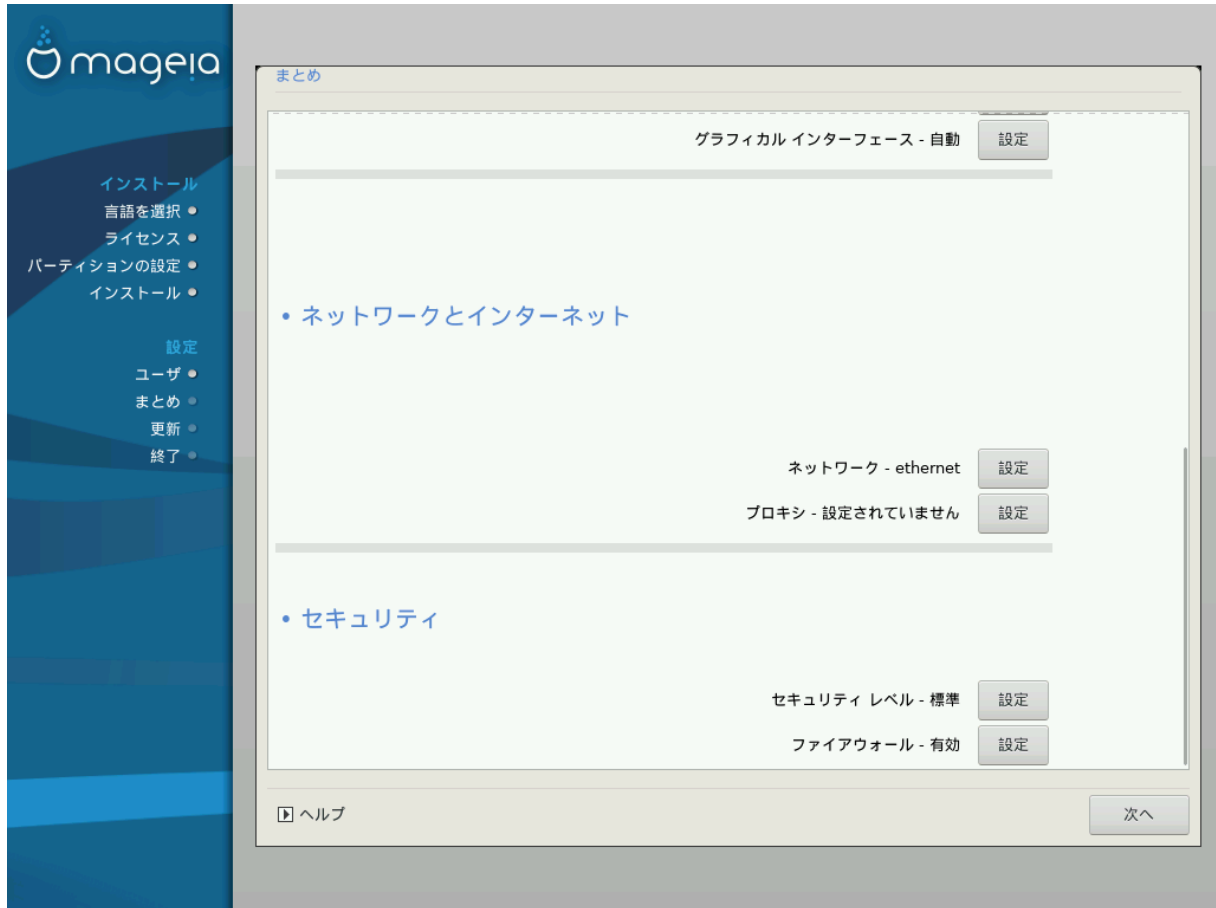
- サウンドカード

インストーラは既定のドライバが利用可能な場合にこれを使用します。

お使いのサウンドカード向けの既定のドライバがなければ、代替として使用できるドライバがあるかもしれません。これに該当し、インストーラが最適な選択をしなかったとお考えの場合、##をクリックしてドライバを手動で指定することができます。

- グラフィカル インターフェース

このセクションではお使いのグラフィックカードとディスプレイの設定が可能です。詳しい情報は、[グラフィックスカードとモニタを設定する](#) を参照してください。



15.3. ネットワークとインターネットのパラメータ

• ネットワーク

ここであなたのネットワークを設定できますが、非フリーなドライバを使用するネットワークカードに対しては *Nonfree* のメディア リポジトリをまだ有効にしていない場合は再起動後に Mageia コントロール センターを用いて設定するとよいでしょう。



ネットワーク カードを追加する際には、忘れずに同様にファイアウォールを設定してインターフェースを監視するようにしてください。

• プロキシ

プロキシ サーバはあなたのコンピュータとより広いインターネットとの間の仲介者のように振る舞います。このセクションではコンピュータでプロキシ サービスを利用するように設定することができます。

ここで入力する必要があるパラメータを得るためにシステム管理者に相談する必要があるかもしれません。

15.4. セキュリティ

• セキュリティ レベル

コンピュータのセキュリティ レベルで、ほとんどの場合において既定の設定 (Standard) が一般的な用途で適切です。最もあなたの用途に適したものを選択してください。

• ファイアウォール

ファイアウォールはお使いのコンピュータで許可するネットワーク接続の管理を可能にします。安全でセキュアな既定値は外部からの接続をすべて拒否する動作です。これは外部に接続したりお使いのコンピュータを普通に使用したりすることを妨げるものではありません。

インターネットは、システムを探ったり攻撃したりする試みが絶え間なく行われている高リスクなネットワークであるということを知っててください。ICMP (ping で使われる) のような一見「安全」な接続でさえ悪意のある人によりデータを盗み出すためにデータチャンネルの変換に用いられてきました。

詳しい情報は、[ファイアウォール](#) を参照してください。



###を許可すること (ファイアウォールなし) はとても危険になりうるということをご留意ください。

16. 国や地域を選択する

The screenshot shows the Mageia installation '国/地域' (Country/Region) selection screen. The sidebar on the left contains the following menu items:

- インストール
- 言語を選択
- ライセンス
- パーティションの設定
- インストール
- 設定
- ユーザ
- まとめ
- 更新
- 終了

The main window displays a list of countries and regions. The selected country is '日本' (Japan). The list includes:

- 中央アフリカ共和国
- 仏領ギアナ
- 仏領ポリネシア
- 仏領極南諸島
- 北マリアナ諸島連邦
- 北朝鮮
- 南アフリカ
- 南ジョージア島・南サンドイッチ諸島
- 南極
- 台湾
- 日本
- 東ティモール
- 米領サモア
- 米領バージン諸島
- 米領太平洋諸島
- 英領インド洋地域
- 英領バージン諸島
- 西サハラ
- 赤道ギニア
- 韓国

At the bottom, there is an input field for '入力メソッド:' (Input Method) with 'IBUS' selected. There are also 'ヘルプ' (Help), '戻る' (Back), and '次へ' (Next) buttons.

- 国や地域を選択します。これは通貨や無線の規制ドメインのような様々な設定に対して重要です。国の設定を間違えると無線ネットワークが使えなくなる可能性があります。
- あなたのいる国が一覧にない場合、###をクリックしてそこで国や地域を選択します。



あなたのいる国が###の一覧にしかない場合、OK をクリックした後で主な一覧の中から国が選択されたように見えるかもしれませんが。これは無視してください、DrakX はあなたの実際の選択を適用します。

16.1. 入力メソッド

###画面では入力メソッドも選択できます (一覧の下)。入力メソッドは複数言語 (中国語, 日本語, 韓国語など) の文字の入力を可能にします。IBus は既定の入力メソッドで、このユーザは手動で設定する必要はありません。他の入力メソッド (SCIM, GCIN, HIME など) も同様の機能を提供し、パッケージ選択の前に HTTP/FTP のメディアを追加した場合にインストールできます。



入力メソッドの設定をインストール時にし損ねた場合、インストール済みのシステムをブート後にコンピュータを設定 # システムを通じて、または `root` として `localedrake` を実行することでこれを行えます。

17. サービスを設定する

サービス

起動時に自動的に開始するサービスを選んでください

▶ インターネット	<input checked="" type="checkbox"/>
▶ システム	<input checked="" type="checkbox"/>
▼ ネットワーク	<input checked="" type="checkbox"/>
network	<input checked="" type="checkbox"/>
network-up	<input checked="" type="checkbox"/>
resolvconf	<input checked="" type="checkbox"/>
network-auth	<input type="checkbox"/>
arp-ethers	<input type="checkbox"/>
systemd-resolved	<input type="checkbox"/>
systemd-networkd	<input type="checkbox"/>
▶ その他	<input checked="" type="checkbox"/>

情報

有効化するとネットワークが有効になるように求めます

17 個を起動 (登録数は 33 個)

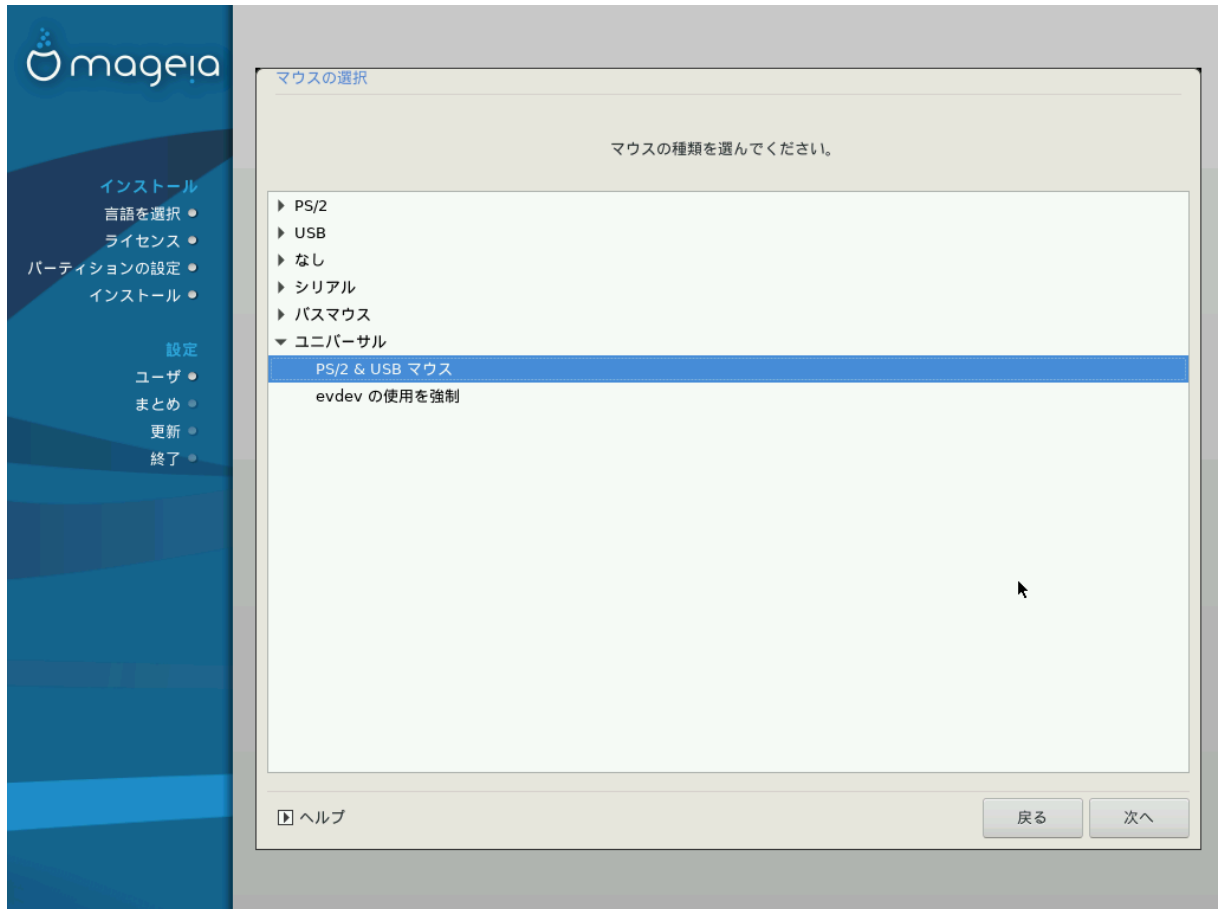
ヘルプ 戻る 次へ

ここでシステムのブート時に開始するサービスを選択することができます。

- グループの前にある三角形をクリックするとグループに関連したすべてのサービスが展開されます。DrakX が選択した設定は通常は適しています。
- サービスを選択して強調表示すると、下部の情報ボックスにこれについての幾らかの情報が表示されます。

何をしているのかよく分かっている場合にだけ変更を行ってください。

18. マウスを選択する

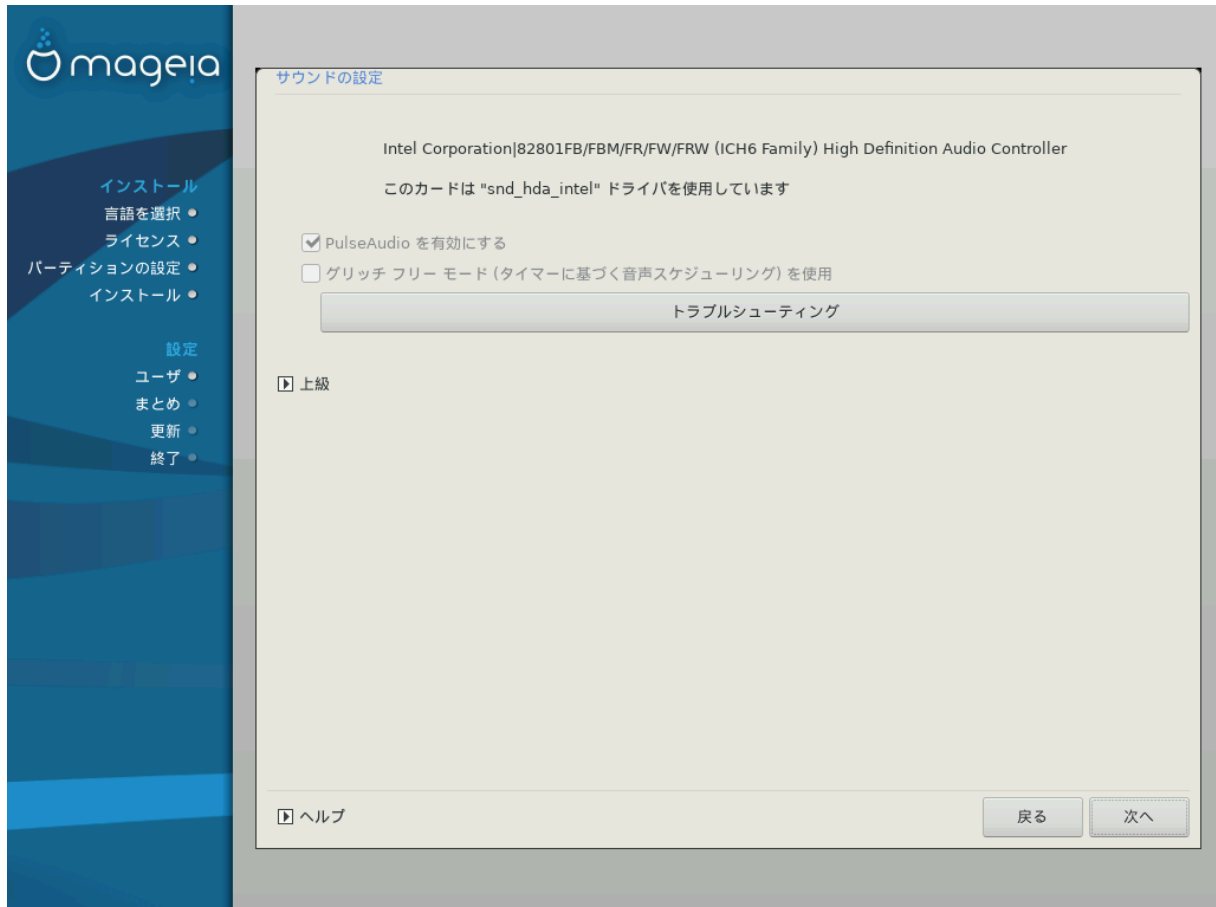


お使いのマウスの反応に満足していない場合、ここで異なるマウスを選択できます。

通常は、ユニバーサル # PS/2 & USB マウス がよい選択です。

ユニバーサル # evdev の使用を強制 を選択すると、六つ以上のボタンのあるマウスで動作しないボタンを設定します。

19. サウンドの設定



この画面ではお使いのサウンド カード向けにインストーラが選択したドライバの名前が表示され、これはサウンド カードが存在する場合にその既定のドライバとなります。

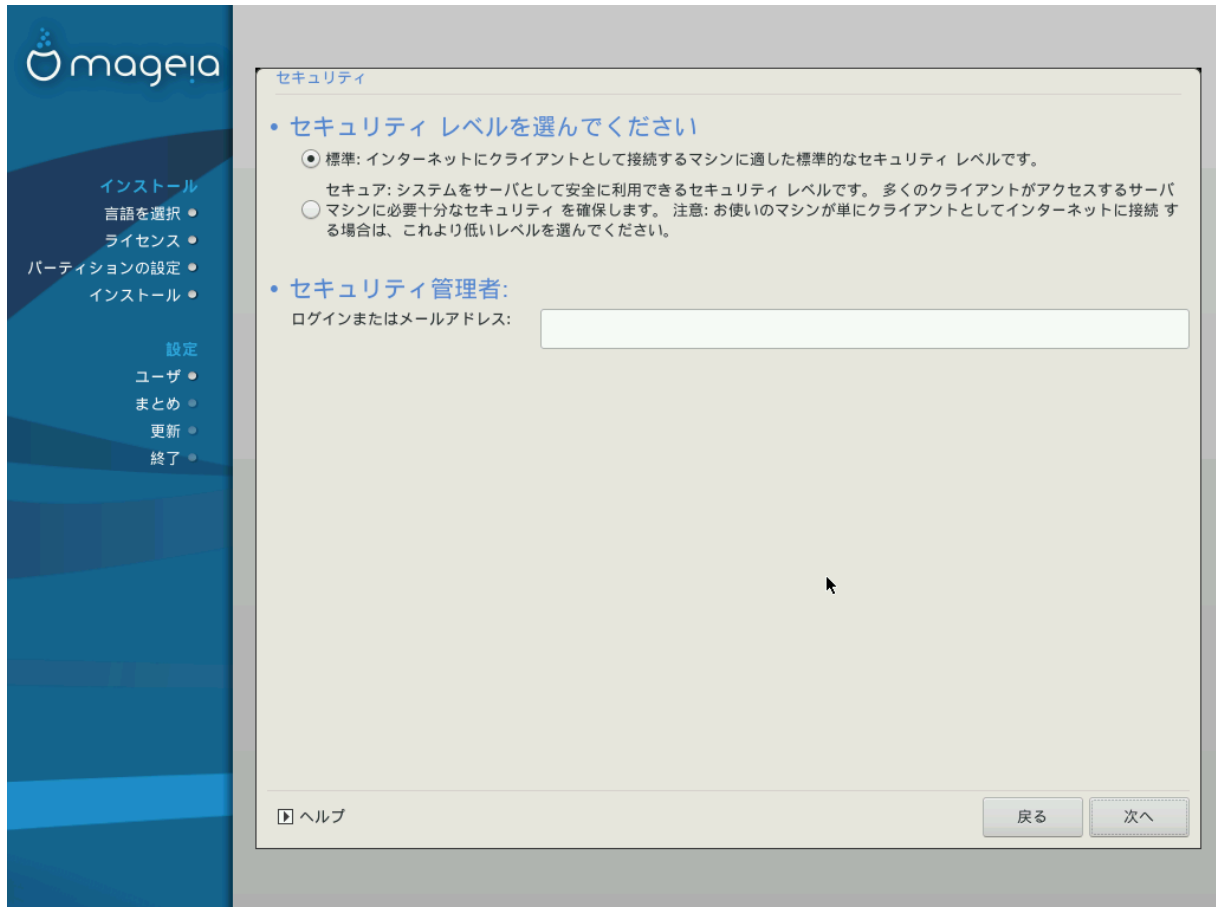
既定のドライバは問題なく動作するはずですが、しかしながら、インストール後に問題に出くわした場合は、**draksound** を実行するか、このツールを MCC (Mageia コントロール センター) を通して開始し、後者はハードウェア タブを選択後に画面右上のサウンドの設定を選択します。

このツールでは、サウンド サーバのバックエンドを選択でき、つまりサウンドを管理できます。選択肢は pulseaudio と pipewire です。後者の場合、セッション マネージャを Wireplumber と Pipewire Media Session から選びます。新しい設定を適用後、必要なパッケージがインストールされ、サービスが設定されます。

19.1. 上級

この画面の上級をクリックした後、サウンド ミキサー設定を既定値にリセットすることが可能です。

20. セキュリティ レベル



お望みのセキュリティ レベルを選択してください

Standard は既定かつ標準的なユーザ向けに推奨される設定です。

Secure の設定は高度に保護されたシステムを構築します - 例えばシステムが公開サーバとして使用される場合です。

セキュリティ管理者

この項目ではシステム管理者への通知が必要な状況を検出したときに#####を送信するメールアドレスを設定できます。

<user>@localhost を入力するのが好ましく、かつ簡単な選択です。<user> はこれらのメッセージを受け取るユーザのログイン名です。



システムはそのようなメッセージを "通常の" SMTP メールではなく **Unix メールスプール** メッセージとして送信します: そのため、このユーザはそのようなメールを受け取るように設定されていなければなりません!

Mageia コントロール センターの##### セクション内でセキュリティ設定をいつでも調整できます。

21. ファイアウォール

このセクションでは幾つかのシンプルなファイアウォール ルールを設定可能にします: これらはインターネットからどの種類のメッセージを対象システムを通して受け入れるかを決定します。これは、その後で、システム上の対応するサービスをインターネットからアクセス可能にします。

既定の設定 (どのボタンもチェックされていない状態) では、システムのどのサービスもネットワークからアクセスできません。### (#####) はマシンのすべてのサービスを有効にします - 完全に無防備なシステムを作るだけなのでインストーラの中では大きな意味のない選択肢です。これの本来の用途は Mageia コントロール センター (同一の GUI レイアウトを使用しています) の中でテストやデバッグの目的で一時的にファイアウォールのすべてのルールを無効化することです。

他のすべての項目は多かれ少なかれ分かりやすいものです。例えば、マシン上のプリンタをネットワークからアクセス可能にしたい場合は CUPS サーバを有効にします。

上級

##の項目はウィンドウを開き、そこでは「対」の一覧(空白区切り)を入力することで複数のサービスを有効にできます

```
<#####>/<#####>
```

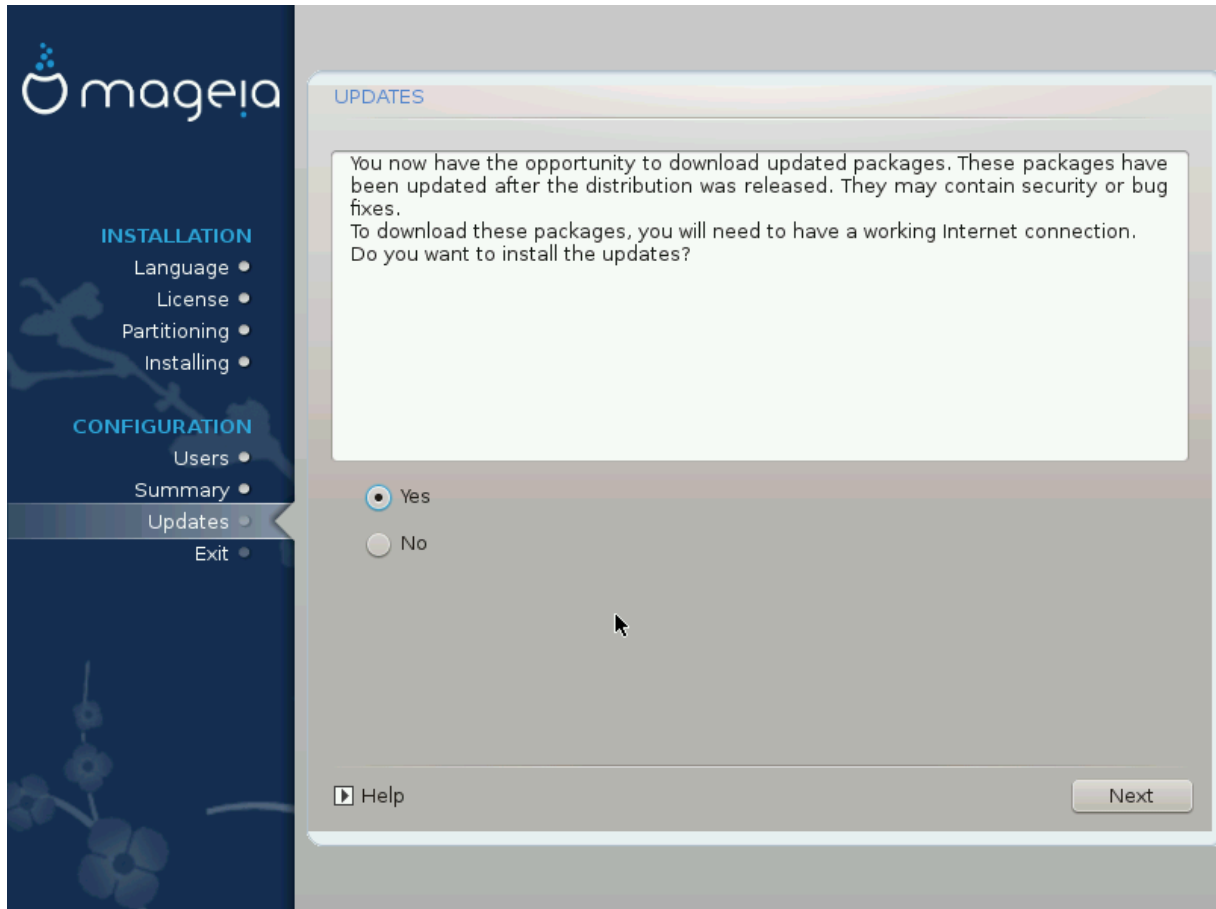
-<#####> は有効にしたいサービスに割り当てられるポートの値 (例 RSYNC サービスの場合 873) で、RFC-433 で定められています;

-<#####> は TCP か UDP のいずれか - そのサービスによって用いられるインターネット プロトコルです。

したがって、例えば、RSYNC サービスへのアクセスを有効にするための記述は *873/tcp* となります。

サービスが両方のプロトコルで実装されている場合においては、同一ポートに対する 2 組を指定します。

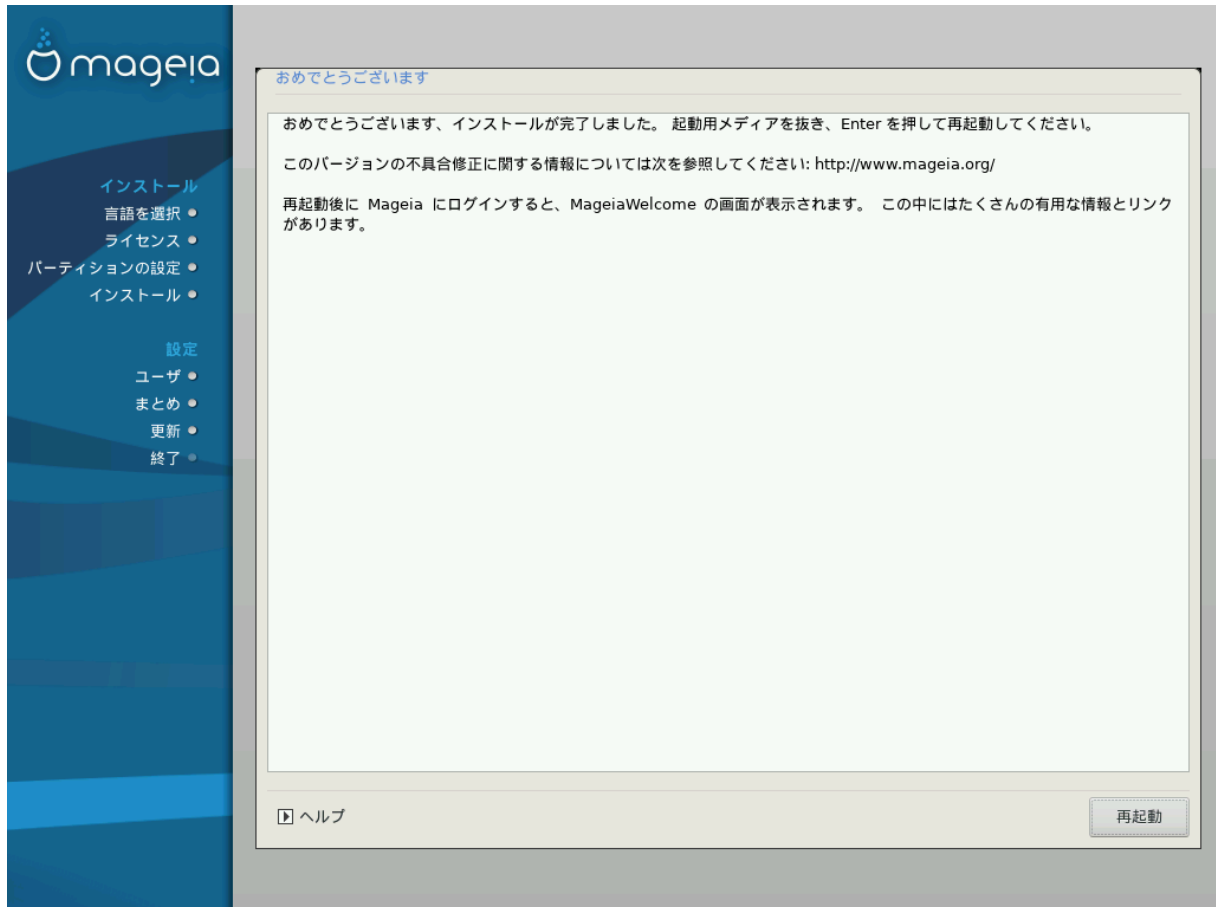
22. 更新



このバージョンの Mageia が公開されたので、幾つかのパッケージは更新もしくは改善されているでしょう。

- これらをダウンロードおよびインストールしたい場合は##を選択します。
- すぐにこれを行いたくないか、もしくはインターネットに接続していない場合は###を選択します。
- ##を押すと続行します。

23. おめでとうございます



Mageia のインストールと設定は完了し、安全にインストール メディアを取り除いてコンピュータを再起動できます。

再起動後にブートローダの画面でお使いのコンピュータ上のオペレーティングシステムからいずれかを選択することができます (複数ある場合)。

ブートローダの設定を調整していなければ、インストールした Mageia が自動的に選択されて開始します。

お楽しみください!

ご不明な点があるか、もしくは Mageia に貢献したいのであれば www.mageia.org/ja/ [http://www.mageia.org/ja/] にアクセスしてください。

24. Mageia をアンインストールする

Mageia があなたを納得させなかったか、もしくはあなたがこれを正しくインストールできなかった場合 - 手短かに言えば、あなたはこれを削除したいはずですが - これはあなたの権利であり、Mageia はアンインストールの可能性の提供も行います。これはすべてのオペレーティングシステムには当てはまりません。

データをバックアップした後、お使いの Mageia インストール メディア DVD を再起動して####を選択し、次に、*Restore Windows boot loader* を選択します。次のブート時、Mageia オペレーティングシステムの選択はなくなって Windows だけになっているでしょう。

Windows で Mageia のパーティションとして使用されていた領域を復旧するには: スタート # コントロール パネル # 管理ツール # コンピューターの管理 # 記憶域 # ディスクの管理をクリックしま

す。Mageia のパーティションは##と表示され、そのサイズやディスク内の位置からも、あなたはこのパーティションが認識できるでしょう。各パーティションを右クリックして##を選択すると、その領域は解放されます。

Windows XP をお使いの場合、新しいパーティションを作成してそれをフォーマットできます (FAT32 もしくは NTFS)。そうするとパーティションのドライブ文字が付くでしょう。

Vista もしくは 7 をお持ちの場合、もう一つの可能性があり、解放された領域の左にある既存のパーティションを拡張することができます。gparted のような、windows と linux の両方で使用可能な他のパーティション管理ツールもあります。いつものように、パーティションを変更する際には十分注意し、大事なものはすべて事前にバックアップしておくようにしてください。